

平成25年3月13日

1. 出席議員

議長	杉原豊喜	副議長	山崎鉄好
1番	朝長勇	2番	山口等
3番	上田雄一	4番	山口裕子
5番	山口良広	6番	松尾陽輔
7番	宮本栄八	8番	石丸定
9番	石橋敏伸	10番	古川盛義
11番	上野淑子	12番	吉川里己
14番	末藤正幸	15番	小池一哉
16番	小柳義和	17番	吉原武藤
19番	山口昌宏	20番	川原千秋
21番	牟田勝浩	22番	松尾初秋
23番	黒岩幸生	24番	谷口攝久
25番	平野邦夫	26番	江原一雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長	筒井孝一
次長	松本重男
議事係長	川久保和幸
議事係員	江上新治

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
技		監	松	尾		定
政	策	部	角			眞
つ	な	が	宮	下	正	博
營	業	部	森		孝	畑
營	業	部	北	川	政	次
く	ら	し	山	田	義	利
こ	ど	も	蒲	原	惠	子
ま	ち	づ	石	橋	幸	治
山	内	支	成	松		薫
北	方	支	坂	口		勉
会	計	管	浦	川	正	盛
教	育	部	古	賀	雅	章
教	育	部	白	濱	貞	則
水	道	部	松	尾	満	好
総	務	課	中	野	博	之
財	政	課	水	町	直	久
企	画	課	平	川		剛

議 事 日 程 第 3 号

3月13日（水）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成25年3月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
6	19 山 口 昌 宏	1. 今後の庁舎をどうするのか 2. 図書館の今後は 3. 市長の今後の政治姿勢
7	8 石 丸 定	1. 市長の政治姿勢について 2. F&B良品について 3. 図書館の運営について
8	10 古 川 盛 義	1. 飛龍窯祭りについて 2. お結び課について 3. 公民館建設について
9	21 牟 田 勝 浩	1. 市民の安心安全について 2. 経済対策について 3. 地域活性化について 4. 教育について

開 議 9時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は21番牟田議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、19番山口昌宏議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

おはようございます。3月議会の一般質問、ただいまより始めさせていただきます。

けさ事務局に着いたときに、「一般質問は、登壇して2分で大体その日の調子の決まあもんな」と2番議員の山口等議員から言われまして、そがん言うぎそがんにゃと。

ただ、一般質問って、私は常々考えているのは、例えば9月議会で一般質問をした。そして、次は12月議会。9月議会で一般質問が終わったら、次の12月議会へ向けての勉強を日々、私はしてきているつもりなんです。そして、今回も12月議会終了後、1月に入ったら何をしようか、どういうふうな問題点に取り組もうかという気持ちの中で日々過ごしているところでもあります。

しかし、その3カ月間の中でも、一生懸命自分がしたその気持ちを一般質問であらわすときに、自分が4日目に当たった。皆さん方それぞれに思いを持って一般質問される。その中で、自分と同じ質問をされる方、何人とおられます。あら、これもかぶった、あら、この人もやった。せめて執行部の皆さん方が、それはこの人もこういうふうな質問ばしてくいよんさあよと言っていたら、私もそれなりに考えることもできるでしょう。私もこれだけ市役所に来よって、これだけ市の職員さんから信用のなかかと思うと本当に涙の出るごたつたです。

でもですよ、議会から議会まで、市役所で見たことない人の、それは来よんさあかもわからんですよ、私がたまたま会わんとかもわからん。そういうふうな議員さんたちが一般質問ばしよんさあときに、どういうふうなやり方で一般質問ば勉強しよんさあとやろうかて、いつか聞きに行かんばいかにゃと思ひながら、一般質問に入りたいと思います。

昨日のある人の一般質問の中で庁舎問題の話がありましたけれども、私、特別委員長として、私のふがいなさで皆様方に迷惑をかけたというのは、私がここで謝るべきかどうかと考えておりますけれども、結局、機構として庁舎を幾らに評価をしていただけるかという問題がありましたもんですから、なかなか庁舎のことについて触れることができなくて延び延びになっておったことは事実であります。

まず市長にお尋ねは、今後の庁舎のスケジュール、結局、我々委員会に来たのは、1番目が耐震補強、2番目がここでの建てかえ、3番目は云々——3番目はまだ論議をしておりませんので、そういう中で市長としてどのように考えておられるのか、まず答弁を願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の考えを問われましたので、お答えをしたいと思います。

3案の中で、私は現在地を中心として拡張ということで考えています。現在地を中心として拡張建てかえということをおもっております。その中で、最終的にこれを決めるのは議会で

あります。なかんずく、山口昌宏議員が委員長である特別委員会、議会で決めて、それは最終的な合意として議会でお決めになる話ですので、私の考えを申し述べます。

これに関して、今後のスケジュールでありますけれども、合併特例債を主に充当するということから、これは建設計画を立てなければいけません。それが要件になっておりますので、これを来年度の9月議会——ことしの9月議会ですね。9月議会に私どもから提案をして、議会で御議決を賜ると。それに基づいて実際、話が進んでいくという段取りになります。

実際、合併特例債は、本来ならば今年度で切れていた話でありますけれども、これは5年間延びました。5年間、民主党政権下で延びた。ですが、国は信用なりません。私もいたので、よくわかります。ですので、なるべく早くこの財源が空にならないうちに使うということが大切だと思っております。したがって、今のところのスケジュール感としては、私どもとしてはこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ただいま市長の答弁の中で、現在地を中心ということと、財源は合併特例債を充てたいという2点がありましたけれども、現在地を中心としてということは、現在地、ここなのか、あるいは、ここを中心とした今現在ある庁舎周辺なのか、そういうふうなものを含めてどのようなお考えなのかをもう一度答弁いただきたいのと、財源、合併特例債どうしても使わんばいかん、合併特例債なくして庁舎は建たない、私もそう思っているんです。なぜかというと、庁舎というのは、一般財源、要するに補助金なしの財源でしか庁舎はできないということなんでしょう、通常は。そういう中で、今回7割は交付税措置ができる合併特例債があるということで、これは新市の建設計画の見直し、これが必要じゃないかと思うんですよね。そういう中で、市長としてどのようにお考えなのかを御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはちょっと相手のある話でもあるんですね。ですので、ここはちょっとつまびらかに申し上げるわけにはいきませんが、基本的に、新幹線の用地ということで武雄市の今の敷地が大分とられます。ですので、ここだけで建てかえるというのはあり得ない話なんですね。したがって、ここを中心として、恐らく1つの庁舎じゃなくて、多分そのエリアの中で複数の庁舎になることを私は想定しています。大きいこう、どんじゃなくてですね、武雄らしい、きちんと景観、あるいは環境に配慮したようなものにならざるを得ないということを考えていて、これは単に市役所だけじゃなくて、これも相手のある話ですので、私の希望だけ申し上げますけれども、でき得れば商工会議所さん、あるいはJCさん——青年会議所

さん、それと武雄町の公民館、さまざま要望がございます。これは婦人会であるとか、さまざま市民の皆さんたちから集まって議論できる場、会議ができる場も、ぜひこの中心のところに欲しいということでもありますので、そういう意味でいうと、単に市役所機能だけを持つ建物ではなくて、さまざま市民の皆さんたちが集って活用できるような市役所を私は目指してまいりたいと思っております。

その中で、財源なんですけれども、先ほど議員御指摘のとおり、普通交付税で7割が算入される合併特例債を活用したいと思っております。その中で、私どもとしてはこれを見越して——ちょっと待ってくださいね。つくりました。モニターをお願いします。

(モニター使用) まずですね、いろんな努力をしていきました。職員数についても、これは合併の件と病院のことで大分これだけ減ってきております。62人の減であるということと、それともう1つ大きいのは、財調基金及び公共施設基金残高の推移なんですけれども、我々は今まで新たな箱物はつくってきませんでした。あるものを活用するということで、図書館もそうなんですけれども、可能な限りあるものを活用すると。この間、例えばバナナのたたき売りとか平野議員さんとか江原議員さんからも厳しく言われていますけれども、病院をきちんと4億数千万円で売ったりとかいうふうにして、我々がさまざま努力をして積み上げてまいりました。これも財源の大きな一つになって、基本的には市民の皆様方に可能な限り負担をかけないということで私どもは考えていっております。

そういうことで、先ほど申し上げましたとおり、財源というのは非常に貴重な話でありますので、これは繰り返し申し上げて恐縮なんですけれども、合併特例債を活用しつつ、先ほどの財源について、それでも足りない部分は公共施設整備基金等できちんと充当をすることで、繰り返しになって恐縮ですけれども、きょうも傍聴がたくさんお見えになって、顔見知りばかりですけれども、市民の皆様方に可能な限り御負担をかけないということで、市民の皆様、市民の皆様方による市役所をつくってまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

実はこの次に、「市長、市の財政大丈夫や」と聞こうで思ってたんです。そいぎ、今モニターで見せていただきましたとおり、合併特例債、あるいは今、武雄市の財源の確保等々を見ましたときに、何とか武雄市の新庁舎ができるのかなと。

ただ、庁舎建設というのは、我が武雄市にとっては本当に一大事業なんです。先ほど市長の答弁の中に、いろんなゾーンをつくって分散型をしてみたいとかいう話がありました。しかし、庁舎を1つつくって、仮に庁舎、あるいは何かを3カ所つくったら、そこには設備が3カ所分は要るわけですね。そいぎ、コスト的にどうなのかという部分も出てくるわけ。

ということは、これは節電になるのかならんのかという部分も含めて、やっぱり今後考えていかなければいけないと思うわけですね。その点について市長の認識はどうかというのをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この点については、私も市民の一人なんでね、自分の考え方を申し述べたに過ぎません。決定権は全て議会にあります。ですので、今、市民から成る検討委員会、そして私どもの武雄市役所、そして皆さん方の議会、三者で最終的には決めるということになりますので、やっぱり万機公論に決すべしだと思います。先ほどの私が、分散型といってもそんな遠くじゃないですよ。限られたエリアで複数の棟があるほうが、私は災害時のことを考えた場合に、1つだけだとどうしても、それが全部機能がストップするということにもなりかねませんので、やはりいろんなことを考えた上で分散型と思ったんですけど、確かに議員がおっしゃるように、トイレも3倍になるとか、いろんな設備が2倍から3倍になるんじゃないかという御指摘もよくわかりますので、それは具体的にはきちんと、きのう朝長議員からもありましたけれども、第1段階はまず場所を決める。その後、そういうあり方についても第2段階としてよく御議論いただければありがたいと思っております。

きょうの私の答弁で、きょうは佐賀新聞も西日本新聞もお見えになっていますので、多分これはあした大きく載ると思います。多分1面トップで載ると思いますので。ですので、これで市民の広範な議論を期待したいというふうには思っております。我々のための市役所じゃなくて、あくまでも市民の皆さんたちの市役所という視点を忘れないで、我々としてはまた引き続き御検討に参画をしないと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

私たち特別委員会で三重県の松阪市に行ったときに、議長さん、前議長さん、あるいは今の市長さん——現市長さんが37歳で、当選されたばかりの市長さんだったんですけども、その市長さんとお会いする機会を得まして、今の市長の答弁を聞いたときに、うちの市長、まともでよかったにやあて本当に思いました。この松阪市長どうやろうか、鹿児島阿久根市長とどっちがどうやろうかというくらいの元気な市長さんですね。よかったにや、武雄市長はまともでと本当つくづく思いました。これは報告です。

それでですね、今、庁舎をつくるための組織として市役所の中に置かれておりますけれども、執行部として具体的に決める業務の執行体制、要するに、庁舎をつくるためにはどうかという業務のやり方、執行体制をもっと強化するべきじゃないかと思うわけですね。今

3人で恐らくこの大きなプロジェクトに向かってやられておりますけれども、仮に昇格でもさせて、ちゃんとした庁舎建設のための部署をつくるのはいかがかと思うんですけれども、どうなのかと思うんですけれども、その点についての答弁をもらいたいと思いますけど。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘を踏まえまして、4月1日付で庁舎対策課を設置します。庁舎対策課を設置して、課長には平川を登用します。うちのエースを登用します。ますますやせるでしょう、これで。

あわせて、ちょっとこれは今後議会ともよく調整をしなければいけない話なんですけれども、今後のスケジュール感、ボリューム感によって、どれだけ人を4月1日に配置するかということがありますので、いろんな人材を庁舎対策課に、放り込みたいと言ったらあれですけど、きちんとしていきたいということを思っております。恐らく9月から多分本格的になる話だと思うんですよ、この庁舎というのは。ですので、そういう意味も踏まえて、もう4月からきちんとして専従体制をとっていききたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、一大プロジェクトですので、落ち度のないように頑張っていただきたいと思います。

では、2番目の図書館の今後ということについてお尋ねをしていきたいと思います。

4月オープンに向けての図書館を、市長は今どのような思いで図書館オープンを待っておられるのか、まず、それからお尋ねをしていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとスクリーンを出してほしいんですけれども。

（モニター使用）これが本邦初公開になります。3月になってから撮った写真であります。今どういう状況になっているかというと、ここにどんどん本が運び込まれています。CCCの皆さん、職員の皆さん、そして、これはボランティアの市民の皆さんたちが多く集っていただいて、山口等議員もボランティアに参加してもらいましたけれども、そういった中で、どんどん今、本が入ってきています。きょうの昼もちょっと視察に行こうと思っているんですけれども、きのう時点で6割から7割、本が入っています。

これは真っさらの空の状態、ちょうど皆様方から見て左側のところにスターボックスが入ります。スターボックスで、もう今、実地の研修が行われています。きのう、スターバッ

クスの本社の方もお見えになっていましたので、昼休みに伺ったところ、ここまですごいとは思わなかったということはおっしゃっていました。きのうのブログにも書きましたけれども——書いたかな、フェイスブックだったかな、ちょっと忘れましたが、私も図書館大好きです。今まで好きだった図書館が、ニューヨークのパブリックライブラリー、それと東大の総合図書館が私は一番好きだったんですけれども、それを上回っています。正直言って、これね、結構本当に笑いが出てくると思うんですけれども、これを見たときに皆さん多分そういうふうに思ってくださいと思うんですよ。ね、上田議員。ですので、そういう観点から今非常にわくわくしております。恐らく、プラカード持って反対された人たちも、これを見たときに一体どういう感想をお持ちになるかということは何となく伺ってみたいと思います。

もう1枚ありますけれども、今こういう状況で作業が進んでいます。これは今まで閉架していたところのスペースなんです。市民には閉ざされたスペースだったのが開架をして、このブルーシートのところにはテーブルがつかます。ここでも学習をする、あるいは本を読めるというような環境に相なります。

そういった中で、あと当然のことながら、これはよく写っていますけれども、LEDを全部入れて環境にも配慮をしつつ、それと、商業用と違って非常に目に優しい、体に優しいという照明になっていますので、皆様方には自宅の延長として、御自身の書斎であるとか、図書室であるとか、そういう延長としてぜひ使ってほしい。子どもたちには、ちょっと写真は用意しませんでしたけれども、今までの1.4倍のスペースも、きちんと一番日の当たるところに確保しております。ですので、庁舎もそうなんですけれども、これは市民の皆さんたちの図書館だということで、ぜひ御活用願いたいと思っています。そういう意味で、こういうふうに準備が着々と進んでいますので、4月1日を控えて非常にわくわくしているところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ちょっとここで話が横道にそれますけれども、私は先日、陸前高田と、それから仙台市に、市長と一緒に、あるいは特別委員長と一緒に追悼式に出席をさせていただきました。そのときに、陸前高田で被災者の代表として挨拶をされましたけれども、その挨拶の中身を聞いたときに市長がどのように思われたのか、まずそれをお聞きして次に進みたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

追悼式は、小池一哉被災者支援特別委員長と一緒にさせていただきました。

小島さん——私と同年代の方なんですけれども、一緒に住んでいた御両親と奥さまと一人娘、7歳の娘さんを、さきの大震災の津波だと思えます、津波で一瞬のうちに亡くされた。小島さんのお言葉の中でこのようなことがありました。7歳の子が、生きていればこれから恋をして、自分が好きな人と結ばれて幸せな家庭を築いたろうと。この津波で、一瞬のうちに彼女の夢もついでましたというような趣旨をされたんです。その一方で、小島さんが気丈にもね、これから市民は頑張っていると、陸前高田が劇的に変わるだろうって、劇的に変わるって。それを娘と一緒に見ていきたいということをおっしゃって、津波からはまだ2年——まだ2年とおっしゃったんですよ、もう2年じゃなくて。これから本当の復興が始まっていきます。見届けてくださいと。そして最後に、市民の皆さん、それと日本国中の皆さん、そして世界の皆さんたちに、こんなに温かく支援をしてくださってありがとうございますということをおっしゃったときに、やっぱり魂が震えましたね、本当に。ですので、こういう頑張っておられる方がいて、僕らはやっぱり同じ日本人としても、同時代に生きる者としても、できることは最大限やるのが我々の務めだと思います。ですが、我々も遠く離れています。ですが、皆さんから言われたのは、やっぱり細くてもいいから末長く続けてほしいということをおもいもおっしゃいましたので、そういう気持ちを新たにしたいところでありたい。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

そういう中で、追悼式が終わって、陸前高田で作業をした大坂さんという方に会う機会がありまして、大坂さんとお話をしました。

その中で、大坂さん本人は——奥さんなんですけれども、本人さんは去年よりも元気な姿。私の今の目標は家を建てたい、どんなに小さくてもいいから建てたい。しかし、自分の旦那さんが今病気で入院中だ。それもかなわん。そういう思いを自分は持っているけれども、遅々として進まない今の現状を切々と訴えられたということなんです。

そしてその次の日に、仙台の、それこそきのうの話じゃないですけども、議会のたくさんの皆さん方が仙台に行って大友さんという方のお話を聞き、大友さんの家の復興を願って作業をしたわけなんですけれども、その大友さんも、もう百数十年はたっているであろう家を修復されて、そこで生活をされています。そして、帰りにですね、大友さんは、このトマトを持って行って食べてくんしゃい。我々行った人数分だけ袋に入れて、このトマトを佐賀まで持って行って食べてよと。人と人とのつながり、まさに支援の輪、これはきょう一遍したから、今回一遍したからじゃなくて、末長い支援をずっとしていかないと本当の支援とは言えないんじゃないかなとつくづく思いながら宿舎に帰ったんです。そして、宿舎に帰った

ら——モニターお願いします。

(モニター使用) 宿舎に帰ったらこれなんです。これが出てきた。これは何か。プラカードです。どこでプラカードば立てとんさあですかと。図書館の敷地内と。図書館の敷地以内ば——教育委員会にお尋ねをしたとですけども、そいぎ、あなたたちは許可はちゃんとやったですか、許可書はもろうたですかと聞いたですけども、返事がないんですけども、教育長いかがですか。

○議長(杉原豊喜君)

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会が、図書館内の敷地を通過されたということで、その経過について御説明します。

去る3月9日に……

〔19番「いや、もう経過は要らん。経過は要らんけんが、ここに許可を出したか出しとらんかだけ言うてよ」〕

許可は出しておりません。

○議長(杉原豊喜君)

19番山口昌宏議員

○19番(山口昌宏君)〔登壇〕

ということは不法占拠ですか。看板は「茂義公が泣いている」って。誰かがさっき「茂義公はあんたの父ちゃんやなかや」て。うちのおやじも重義とついておりました。笑い事のような本当の話なんです。本当の話をすると、うちのじいさん、要するに重義さんのお父さんと鍋島さんが物すごく仲がよかった。酒飲み仲間だったそうです。それで、うちのじいさんが私の親の名前を重義とつけたと私は小さいころずっと聞いておりました。字はちょっと違うですけど。やっぱり恐れ多いと思ったんでしょうね、字なりとん変えとかんばと思うて。

これ見てもらっていいですか。「文字活字文化を」って。さっきの市長の、あるいは子どものための図書館をと。子どものための図書館は1.4倍になりましたと市長は今言ったでしょう。そして、もう一度戻って、「ソーシャルメディアより文字活字文化を」と。図書館の中を見たときにこれができるのかと、こういうふうなことを書けるのかと。

私が最も許しがたかったのは、もうけさ本人さんに承諾を得ましたので言いますけれども、共産党の平野議員さんがこのプラカードを持って行進をされております。私に言わせれば、平野議員さんは常任委員会のお酒を飲んで出席をされております。その議会に対する釈明もなければ、市民に対するわびもない。そういう中で、こういうふうなプラカードを持って立つ、最も許しがたい、私はそう思います。市長としてはどがん思うですか。

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も市長に就任させてもらって7年になろうとしているんですけども、いろんな方がいらっしゃるんですよ。本当に頑張っておられる方、そして議員といっても足を引っ張るばかりの方、いろいろいらっしゃると思います。ですが、我々はやっぱり市政をきちんと行う上では、多くの市民の、特に弱い立場に置かれた皆さん方の意見をきちんと聞いて、それで進めるべきだと思っていますので、そういう意味では、前はいろいろちょっと気になったんですよ。だけど、このごろは、もう何か叱咤激励と思うようになりました。強くなりました。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

こういうふうなプラカードを見て、そして帰ってきて、武雄市は平和でよかったにやと、本当にそう思いました。それはなぜか。東日本のあの震災を受けた被災者の皆さん方は、今も仮設住宅に住んで、学校もなく仮校舎なんです。校舎があるかと思えば、グラウンドは仮設住宅なんです。図書館もなく読む本もないんです。家族だって今もわからず、二千数百人の人がまだわからないでおります。武雄市は、こういうふうなプラカードが立てられるような、要するに何もない武雄市でよかったな、反面本当に思いました。プラカードを持って行進をされた皆さん方も、その辺のところをお酌みいただければ本当にもっといいのかなと。今ですね、二重苦、三重苦、本当に四重苦に遭っておられる被災者のことを思えば、武雄市に生まれたことを感謝して、私は今一般質問をしております。

ただですね、次に入りますけれども、これは何だと思えますか。ちょっと大きくします。「市議会も情緒的に推移し科学的な議論も無く、市長派の議員多数を持って素通りしてしまう。」、井上さんの文なのでしょう。「指定管理者の突然の発表に驚く」と書いて。「市長派の議員多数を持って素通りしてしまう。」、まさに議会の冒瀆やないですか。

〔23番「何に書いてあつと。それはでたらめやなかと。何に書いてあつと」〕

ちょっととめてから配付していいですか。

〔24番「議長、そういうやり方すると。そのとおりに出てきたのを……」〕（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

文書配付ですか、資料配付。

〔23番「それが何に書いてあるかが聞きたいだけです」〕

〔24番「配付せろて言わんばいかん」〕

○19番（山口昌宏君）（続）

ちょっとすみません。

「どうなる？みんなの図書館・歴史資料館」ということで、文化会館の大集会室Aであったときの資料です。これを見たらちょっとわかりにくいですが、**「市議会も情緒的に推移し科学的な議論も無く、市長派の議員多数を持って素通りしてしまう。」**。これを議会の冒瀆と言わずして何と言うですか。（「議論したたいね、あがしこ」と呼ぶ者あり）自分たちのしたことが通らんやったら議論をしていないというんですか。

〔市長「いつもそうたいね」〕

最も失礼な言い方ですよ。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

私語を慎んでください。質問を続けて。

○19番（山口昌宏君）（続）

あなたに聞きよつとやなかでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

私語を慎んでください。

○19番（山口昌宏君）（続）

そして、こうもあるのよ。「その市民アンケートも、偏った情報提示・市職員立会いという誘導性の高いもので、70%の数字が今回事業の市民賛成数に置き換えられ……

〔市長「これは市民ばばかにしとる」〕

一人歩きしている」。私が言わじも、市長が今言いましたね。市民をばかにしている。民主主義の原理・原則は何ですか。多数決でちゃんと決まったら、議会が通ったら、それに従うのが議員の役目じゃないですか。それをですよ、自分たちのしたことが通らんやったら……（「あっち見て、あっち見て」と呼ぶ者あり）通らんやったらね……（「あっち見て言えて。おいがないばしたや」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かにして。

○19番（山口昌宏君）（続）

おいがないばしたやて……（発言する者あり）ということだそうですね、本当にですよ、これが通るものか。何か市民をばかにしたような書き方なんです。自分たちがしたのが通らんやったら何でも反対ですかと。もう議会が議決をしたら、それは議会の手を離れ、民意としていくとなっている、法律で決まっているんですよ。それをですね、こういうふうなやり方でするのはいかなものかと思うんですけれども、これは市長に答弁を求めるのはなかなか酷かもわかりませんが、今の気持ちとしてどう思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあね、いろんな市民の方もいらっしゃいますよ。だから、あんまりもう目くじらを立てないで、僕は人のいいところをこれから見ていこうと思います。誰しもね、山口議員だってそう、私もそう、やっぱりいいところがあると思うんですよ。それを見て、やっぱりそれを市政に取り入れていきたいというふうに思うんですね。

だけど、僕がちょっと許せないのは、これね、井上一夫さんという方、僕はあんまりよく知らない人なんですけど、その文章を見たときに、本当に事ほどさように人をばかにしているなどというのはよくわかりましたよ。議会がばかにされ、市民——この文言ですよ、「その市民アンケートも、偏った情報提示・市職員立会いという誘導性の高いもので、70%の数字が今回事業の市民賛成数に置き換えられ一人歩きしている」、これほど市民をばかにした文言というのは僕は初めて見ましたよ。ですので、まあ、そうは言ってもね、もう今ごろ井上さんも反省されていると思います。僕はそういう方だと信じています。ですので、もう4月1日以降、図書館が、やっぱり市民のための図書館だということになりますので、どれほど知見があられるか僕は知りませんが、ぜひ前向きにいろんな意見に参画をしてほしいと。

それともう1つ、今ちょっと手元になくて正確には申し上げられないんですが、集会するのは僕は自由だと思います。ですが、全然何か市民に説明がないとかとおっしゃっているんですよ、この方々は。我々は市民説明会、数回しています。公式にも非公式にも非公開でも、要望があった場合にはしています。その中で、井上一夫さんという方は一回も来ていないんですよ。これは誹謗中傷じゃないですよ。一回も来ずしてね、かつ、市からの十分な説明がないと、説明責任を果たしていないということをおっしゃるといのは、これはいかなものかなということを考えていますので、もうね、そういう政争の具にするのは病院問題でやめましょうよ。だから、図書館は最も政争の具にはいけないものだと思いますよ。ですので、そういう意味でね、今まで集会に参加された議員さんとか、プラカードを持った皆さんたちというのは、やっぱり今後ちょっと心根を入れかえてもらって、前向きにいろんな御意見を賜りたいと思いますし、我々もいろんな立場の方々にいい意見たくさんいただきます。それは十二分に踏まえていい図書館にしていきたいと。武雄市の誇りになる、茂義公が泣かない図書館を目指してまいりたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員（発言する者あり）

静かにしてください。質問者、質問を。

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

質問してよかですか。

○議長（杉原豊喜君）

どうぞ。

○19番（山口昌宏君）（続）

そしたら、質問の続きばしてよかという許可をいただきましたので、次の質問に移りたいと思います。

次の質問は、市長の今後の政治姿勢についてということで出しておりました。

その中で、きのうの夜もちょっとあったんですけれども、新幹線の西九州ルートのですね、きのう東川登の袴野というところで説明会がありまして、西九州道の上の高架でそこ行きますよという説明が、入札があったものですから説明があっておりました。そういう中で、けんけんがくがく、いろいろ話があっておりましたけれども、私は今回、市長の政治姿勢として、新幹線の西九州ルート、武雄温泉から長崎間は確かにフル規格でしょう。しかし、鳥栖でフリーゲージになすときに5分かかりますよ。武雄で今度は広げるとに5分かかりますよと。そいぎ、かかる時間10分なんですね。新幹線、仮に300キロで走って10分間やったら何キロ行くですかね。もうおいが頭では勘定しい切らんと早う行くですよ。それを考えたときに、果たしてフリーゲージで、まだ試されてもおらん、できてもないという中で、市長として、どういうふうな今後の持っていく方を思っておられるのかを御答弁願えればと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もうもともとの持論なんですけど、私は全線フル規格。どこかで変わるとかいうのは、もう中途半端過ぎますよ。日本の公共事業の悪いところはここなんです。だから、費用がかかるからといって、もう非常に費用対効果が悪いものをつくってしまう、その見直しすらないって。これ全然日本って変わっていないんですよ。ですので、そうはいっても、これで佐賀県並びに武雄市の負担がふえるということになると、それはちょっと市民合意とか県民合意がとりにくいと思いますので、県民、市民負担がふえない、だから、要するに国がもっと出せと。これはね、新幹線ってある意味、国策なんです。台湾もそう、中国もそう。だけど、日本政府は何言っているかっていうと、地方の政治スキームにして、本来国策であるのを地方に押しつけているだけなんです。ですので、そこはね、やっとまともな政権にまたかわりましたので、そのときに役割が大きいのはやっぱり公明党なんです。ですので、そこを、やっぱり新幹線というのは単に利便性が増すだけじゃなくて、公明党さんがおっしゃっているように、防災・減災も踏まえて、これは物資の輸送も踏まえて最も安全だということ、そこに新たな公共事業として加味しておっしゃっていただいて、その上で、やっぱりスキームの見直しについて僕らは求めていきたいと思っています。

そうなったときに、路線もありますけれども、一石三鳥ぐらいなんです。その高架にフル規格を入れるとなると、沿線どこも反対しているのは、要するに踏切の話であるとか、振動の話であるとか、そういったことを物すごく沿線の首長さんたちは御心配されているわけ

ですよ。ですので、そういう安全対策にもなりますし、そういうことを我々政治家がやっぱり声を上げていくべき必要があるだろうと思っていますので、今度の安倍内閣には僕は期待しています。これを見直ししなかったらね、もう見捨てます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

要するに、今さっき市長からもありました新幹線の整備に係る財源のスキームですか、地方負担が今3分の1ですね。しかし、ここでよく考えていかんばいかんとは、例えば東海道新幹線、山陽新幹線、東北新幹線、上越新幹線、北陸新幹線の高崎から長野、この部分については全て、さっきの市長の話じゃないですけど、国策として全額国の負担なんです。そして、今3分の1は地元負担をなさいと。これはずっと年号ば見よったら、平成20年、民主党政権になってからのごた感じになつとうとですよ。言い方は悪いかもわかりませんが。今、国は景気対策としてあらゆる手を打っております。今が私はチャンスじゃないかと思うんですね。今、国に対して要望をしていかなければいつするかというような時期だと思うんですけども、その要望の仕方はどういうふうな思いでされるのか、御答弁願えれば。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これこそね、嬉野市さんも加わっていただいて佐賀県が声を上げるべきだと思うんですね。先ほど申し上げたとおり、とまらない自治体があります。ですが、これもフル規格、高架をすることによって、我々が乗れる土俵をきちんとつくって、点ではなくて面として——線ですかね、線として面として国に働きかけると。

僕がショックだったのは、古賀誠先生にお目にかかったときにね、引退された後に会ったときに、この話、全然御存じじゃなかったんですよ。だから、もう少しね、佐賀県選出の国会議員はしっかりしてほしいですよ。どうですか、自民党の支部長さん。だから、きちんと意思決定をされるルートに、全然、野党時代に声が届いていないんですよ。ですので、これはね、地元選出の国会議員はもっと、1区、2区、3区、頑張らなきゃだめだと思いますよ。特に2区は頑張してほしいと思いますので、そういうふうにして、やっぱり市民、県民、国会議員ですよ、最後、国会が決める話、スキームになりますので、もう少しね、我々も反省しています。やっぱり遠慮していました、今まで。ですので、皆さんのお力をかりて、市民の皆さんたちの、商工会議所等々のお力をかりて、きちんと声が届くようにしていきたい。これが日本国のためなんだと、我々、佐賀県民とか武雄市民だけじゃなくて日本国民のためなんだということをしっかり言うていく必要があるだろうと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

まさに私もそう思うわけです。というのは、先般——これは党名言うていいのかな、我々の党の総務委員会がありましたときに、2区選出の国会議員さんに、「あなた出身どこですか、あんたJR出身やろうもん」て、「新幹線フル規格、そういうふうなためにあなたは国会に行たとうとやろうもん。ちっとしっかりしてくんさいさ」て、私は本当に言いました、私は。そいぎですね、皆さん方から拍手の沸いたです。総務委員会のとくに、ほかの委員さんから拍手の沸いてですね、これはほんなごとて。本人全くわかっとなされんやっただです。それで、帰りに何て言いんさったかというぎ、「山口さんお互いに頑張りましょうね」て、こうですよ。いや、本当にそうやっただです。牟田議員、そうやっただですね。もうそんくらいにですね、ほかの議員さんたちはよう言うてくいたて、それがほんなごとさいて。（発言する者あり）いや、そんくらいにですね、我々議員もやっぱり今から先みんな一緒になって、今回の新幹線のルートはやっぱりフル規格やなからんばいかんという、それともう1つは、やっぱり財源がないこの武雄市、この佐賀県、長崎県を含めてですね、国が出さんばやろうもん。これは本当に地方にとっては物すごく厳しい財源なんです。金があるところはただでして、金がないところは、要するに昔の大名と一緒に、参勤交代まではしませんけれども、そういうふうなやり方と全く一緒なんです。

そうじゃなくって、やっぱり地方には優しく、本当の意味での財政的な支援をしてもらうように、我々を含めて行政としても頑張っていかなければいけないと私は思っておりますので、お互いに頑張ろうということで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

〔24番「議長、緊急な議事進行」〕

議事進行に緊急も何もあんもんや。

○議長（杉原豊喜君）

ちょっと待ってください。

以上で19番山口昌宏議員の……

〔24番「いや、その発言の中身ですから」〕

〔19番「だめさ、終わらんぎ」〕

〔24番「なら、終わってください」〕

質問を終了させていただきます。（発言する者あり）静かに、静かに。

以上で19番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）

今の発言の中で、私は本当に、議員の発言はそれぞれの立場でおっしゃっているのはいいですけども、平野議員がお酒飲んで委員会に出席したという発言をされました。前の晩に、

それは疲れとか、気持ちを安らげるために一口は飲んであるでしょう。しかし、それをあえて議会でそういう言い方をするておかしいじゃないですか。（発言する者あり）だから、それは大事なことから、あえてですね、議会が終わったらどっかに行ってしまう、その話だけがひとり歩きするんですよ。もっときちんとしてください、そういうことについては。

〔19番「議長、議事進行」〕

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）

議長、ちゃんと精査してくださいよ。私はですね、前回の一般質問の中で、平野さんが私に朝7時過ぎに電話をして、自分はそのとき酒を飲んどったと自分で言われたんですよ。谷口さんは何も知らんとですよ、それは。私が聞いたんですよ。そして、12月の議会で私はそれを言いました。何ば私が捏造しとるですか。ああいうふうな言い方を、許可をするのはおかしいじゃないですか。精査をお願いします。

〔24番「ちょっと、捏造てしたことないよ」〕

捏造やんね。何も……

〔24番「いや、それだけ言わせてくださいよ。大事なことから」〕

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休	憩	9時57分
再	開	9時57分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

ただいまの議事進行につきましては、谷口議員が言われるのもいかなものかと思うんですよね。

〔24番「誰が言うんですか」〕

本人が言われたらわかりますけど、谷口議員が、あなたが内容をわからないでそれを言われますから。（発言する者あり）

ですから、後で内容を精査して御報告をいたします。

ここで、議事の都合上、10分程度休憩をいたします。

休	憩	9時57分
再	開	10時6分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、8番石丸議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

おはようございます。議長より発言の許可をいただきましたので、8番石丸、ただいまより一般質問を始めさせていただきます。

今回私は、市長に、市長の政治姿勢について、2つ目、FB良品について質問し、3項目といたしまして、教育長に図書館について質問をしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

まず、市長の政治姿勢についてお尋ねいたします。

市長は演告で、フランスのフリーペーパーが選んだ「明日の日本をつくる50人」に選ばれたことをお話しされました。この50人には、橋下徹大阪市長やソフトバンクの孫正義社長も選ばれているようです。武雄市、あるいは武雄市長がさらに注目されることにつながる効果があったのではないかと思うところです。

市長はこれまで全国ネットのテレビ番組などにも出演され、武雄市の知名度は樋渡市長と子ども上がっているのではないかと思う次第でございます。そうした効果があつてか、市長は全国各地で講演をされているようです。講演の費用、特に旅費などは依頼者が負担しているものと思います。本年1月21日にも徳島大学で講演を行っていらっしゃいます。この講演、市長は公務として行われたのか、政務として行われたのか、市長の認識をまず伺います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、でも石丸議員から褒められるとは夢にも思いませんでしたよ。もう率直に言って、やっぱりうれしいですね。でも、私が例えばフランスのフリーペーパーで日本の50人に選ばれたりとか、さまざま今選んでいただいていますし、これからは幾つか選ばれるというのは聞いておりますけれども、それもこれも石丸議員さんを初めとする議会の皆さんたちのおかげなんです。それと市民のみなさんたちのおかげです。そういったことを忘れずに私は市政運営をしなければいけないと思っています。私は別に有名になるのが目的じゃありません。芸能人でもお笑い芸人でもありません。ですが、私が知られるということは、私の肩書は武雄市長ですので、すなわち自動的にイコール武雄市が知られることになるということです。

私は石丸議員と違って出無精ですし、おくてであります。ですので、最初こういうふうに取り上げられるというのは、実は非常に違和感があつたんですけれども、今はもう開き直っています。広告塔として、私がそういう資源の一環として活用をしていただければ、それはもうどんどん出ていこうということを思っています。

答弁に入りますけれども、これね、政務と公務、あるいは事務と政務というのはなかなか難しいんですよ。これ以前、松尾初秋議員からも5年ぐらい前に御質問があつたときに、す

ごく考えて申し上げたんですけれども、私、例えばね、やめたからといって——やめたというか、やめませんよ。一日中ね、例えば皆さんがどう見るかと、私はプライベートでやっても、これは武雄市長がやっているというふうに捉えられる。私は武雄市長としてやっても、いや、これはプライバシーかもしれないって、なぜそういうことが起きるかという、市長というポイントが事務の頂点であると同時に政務、政治家としての役割がこうあるので、それを業務によって分けるというのは、すごくやっぱり難しいんですね。ですので、それをあえて、それを前提に申し上げますと、今回の徳島大学、いろいろ問題になりました。世の中もお騒がせしました。NHKにも御迷惑をかけました。これについては公務であると認識しております。これは事務方にそういうふうに整理をしてもらって、今現時点では公務と。ただし、ブログでは、あの当時、公務プラス政務かなと思っていたんですけれども、講演そのものはもう公務というふうに認識を統一した次第であります。

交通費、宿泊費等は依頼者が負担をしておられます。講演は、先ほど申し上げたとおり、私が行くことによってトップセールスの立場と武雄市をより知ってもらおうと、一番大事な話は、武雄市でしゃべりますと言っています。ですので、今回また徳島からも多くの皆さんたちが、図書館の開設をお聞きになるんだと思うんですけれども、お越しいただくということも聞いておりますし、常に私は武雄市の魅力を自分の言葉で語るのと同時に、これはちょっと申しわけないんですけれども、時間があれば被災地に対して、先ほど山口昌宏議員からも御質問がありましたけれども、被災地に目を向けてほしいということもあわせて伝えております。

ですので、繰り返しになって恐縮ですけれども、徳島大学の講演については公務であるというような認識をしたいということを思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

今、NHKの話が出ましたが、徳島大学の講演が終わってから、しばらくたった2月16日の市長のブログで、徳島大学で講演で使用したNHK番組について、NHKで無断使用したことが書かれていました。番組の2次使用について申し出をしていなかったということで謝罪の文が述べられております。市長はおわびをされていますが、講演会の時点で、許可を受けずに放送の、番組の2次使用を行うことが問題になるという認識があったのかなかったのかということを知りたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、一介の人口5万人の首長ですから、その何というんですかね、手続をしなきゃいけないというのは思っておりましたよ。ですが、これがこれほどの問題になるというのは、ごめんなさい、これは私の識見不足というか、人格の不足の部分なので、これはまた改めて御迷惑をかけたNHKの皆さん、関係者の皆さんに、これは率直におわびをしたいと思っています。

やっぱり著作権て大事なんですよね。大切なんです。ですので、それを公人である私が、軽はずみとはいえ、そういうふうにしてしまったということについては、これはもう本当に申しわけなく思っていますし、今後こういうことがないようにしていきたいなというふうにも思っています。

ですので、今ブログとかフェイスブックでは、主に佐賀新聞社さんと西日本新聞社さんを活用させてもらっているんですけども、これについてもきちんと申請を事務方からさせていただいて、許可をいただいたものについてしているということは申し上げたいなというふうに思っております。まず隗より始めよ、反省はやっぱりきちんと生かすということはまた引き続き率先してまいりたいというように思っていますし、ぜひ石丸定議員さんの幅広い識見で叱咤激励をしていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

市長は今後も講演の依頼を受けられると思います。行政視察に市長みずからも出席され、お話をされる機会も多いと聞きます。武雄市を宣伝するにしても、ぜひ今おっしゃられたことを肝に銘じてお話をさせていただきますようお願いいたしまして、次の質問に移ります。

続いて、F B良品についてお願いいたします。

今回の市長の演告の提出議案事項説明書によりますと、一昨年11月7日に単独で始めたF B良品について、全国の自治体の参加によって市長が目指す通販の第3局が目前であると推察されますが、市民の皆さんからF B良品を市長が頑張って地元の物産を全国に流通するようにいろんなところで公演やアピール活動をしておられるけど、システムはどうなっているのか、自分たちはどうかかわったらいいんだろうかという声をお聞きます。どのようなシステムで組織運営をなされておるのか、担当部局に市民の皆さんが理解できるように説明をわかりやすくお願いしますと通告しておりますので、注文方法や決済の流れ、商品の選定の仕組みなどを、できれば画像をもとにして説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

石丸議員のほうからF B良品についての注文、あるいは決済の流れというふうなことで説

明をということですが、注文につきましては、F B良品ホームページより申し込みを行いまして、その購入情報がシステムの管理会社であるシーズを通じて出品者、あるいは宅配業者へ連絡が行きまして、そこから商品が短期間のうちに注文者のもとへ配達されるというふうな仕組みになっております。（発言する者あり）

それによって、代金につきましては、カード及び代引きの決済となっております、売上げた商品の代金はカード決済手数料及びシステム手数料、それに送料等を差し引いた額をシーズより生産者、出品者に支払われるというふうなことになっております。

商品の選定の基準としましては、武雄市産であるもの、それから武雄市産の原材料を使用したもの、それから武雄市とゆかりのあるものというふうなことで、出品商品は担当職員が掘り起こしたり、市内の業者の方が直接申し込まれる場合も多く、幅広く採用しているところであります。

〔市長「補足します」〕

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません。本来ならね、ちょっと画面を用意しておくべきだったと思うんですけれども、ありていに言うとうこういう感じなんです。要するに、御注文された方が、ちょっとテレビがありますので、こっちを指し示し、すみません。（資料を示す）御注文された方がF B良品に注文をされるということで、これは今F B良品のコンソーシアムの代表構成員の株式会社シーズがそれを受け取って連絡を出品者にするのと同時に、今、佐川急便さんと組んでやっております。佐川急便さんと組んでやっておりますので、同時にこの連絡が行って、あとは出品者さんと佐川急便さんで集荷と出荷のやりとりを行うということで、佐川急便さんのほうから御注文者様に商品の配送を行うということで、これは通常の通販と同じような流れになります。

先ほどちょっと答弁がありましたけれども、出品料は無料にしています、出品者様から出品料は。ただし、いろんな事務手数料がかかりますので、これについては売価の5%ですよね、5%が株式会社シーズさんに事務手数料として入るということになってはいますけれども、でき得ればこの9月以降ね、9月以降、この事務手数料の部分もうゼロにしたいと思っています。

そういう意味で、武雄市の出展者、出品者の方々は、もう本当の意味の楽一楽座、これが僕は行政の支援の一つだと思うんです。やっぱり地域の所得向上をみんな言います。言うけれども、なかなかやっぱりうまくいかないんですね。ですので、我々はいろんな御批判もこれからあろうかと思うんですけれども、通販という、これから通販の時代が始まると思うんです。通販の、大通販の時代が。そこにやっぱり行政として参画をするということで私

たちは判断をして、さまざま御説明をしながら進んでいます。

ただ、きのうも答弁申し上げましたけれども、やっぱりインターネットだけじゃ弱いので、今度カタログ、カタログをつくって、これはちゃんと公募をして、できればお歳暮の時期に合わせてそのカタログを全戸配布したいと、市報とともに全戸配布をして、電話番号、ネットが使えない方でも、使わない方でも電話番号でそこに注文していただくと、今テレビショッピングみたいに自分が御購入したりとか、東京にとか大阪にいらっしゃるお孫さんとかお子さんとかに送れるということをしたいと、究極の目的は、あくまでも市民所得の向上です、市民所得の向上。ですので、そういった観点から我々は制度運営をしていっているところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

F B良品の概要については、昨日の質問の中にもございましたが、現在の武雄市の参加事業者の数や現在までの売り上げの推移はどうなっているのでしょうか。

月々の経費を換算しますと、事業効果というよりも、今のところ、武雄市のPR効果のほうの方が大きいというふうに見たほうがよろしいのでしょうか。

また、参加条件や出店の選考の仕組み等については商工流通課で決められておるのでしょうか。

先日、商工会の指導員さんとお話をしたら、商工会としてもお手伝いができるなら協力したいというようなことでしたが、商工会や商工会議所の連携についてどのようになさっておられるのか、お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

今、F B良品の参加加盟自治体につきましては、昨日、川原議員さんのほうにもお答えしましたが、武雄市を初め、薩摩川内市、陸前高田市、大刀洗町、燕三条地場産業振興センター、那須町、南砺市、多可町、石垣市、宇多津町、10自治体でありまして、次年度以降も参加自治体がふえていく見込みであります。

参加の条件にしましては、F B良品の趣旨に賛同する自治体、あるいは団体としておりまして、全国のF B良品運営協議会を発足させて運営全般について協議会で決定していく予定としております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

多分お尋ねは武雄市のことをお尋ねだったと思うので、それは私からお答えしたいと思うんです。なかなか執行部も緊張するんですよ。ですので、ちょっと私から答弁いたしますけれども、武雄市の売り上げは、多いときで今100万円を超しております。出品数が、大体入れかえをしていますので、70前後今出品をしているんですね。主な売れ筋は、やっぱり、何というんですかね、そこでしか手に入らないもの、いなかレモン売れましたね。いなかレモンは売れた。あとF B良品でしか買えない納豆です。武雄産の大豆を、これは答弁もしましたけど、茨城県の日立市の菊水食品さんをお願いをして、F B良品限定の納豆で売るということで、こういう通販ならではの企画なんですよ。ですので、そういったものがよく売れます。やっぱり果物、農産物はよく売れますね。それとあわせて、宮地ハムも売れます。これは一旦買った人がやっぱりおいしいということでリピーターになると、あと、おいらんたんのカレーですね。これも売れますね。ですので、やっぱり売れるものはリピーターがついて、この人たちが口コミで宣伝をしていただくものについてはやっぱり売れるんだろうなというふうに思っていますし、仮に、きのう答弁しましたけれども、売れない焼き物についても、それは通販じゃなくて、お越しいただいてから窯元、あるいはお店でお買い求めいただくということで効果を発揮しているんじゃないかなということは思っております。

選定の仕方については、今うちの職員が最初のときから企画をして一緒に売り込んでいますけれども、もうちょっと物が大きくなってきたので、もともと選定委員会というのをちょっとつくっているんですよ、商工会に入っていたりとか。ですので、そこでもう決めていくような段取りになっていくんだろうなというふうに思っていますし、ですので、武雄市商工会議所並びに商工会にお願いがあるのは、2点ちょっとお願いがあって、1つは、参加のお店にぜひ出品を促してほしいということと、情報共有を、こういういいものがあるよといったことを事業共有をぜひしていただければありがたいというふうに思っています。

こういう形で、今までは、最初のところなんで、行政主導でいきましたけれども、もうそろそろは商工会並びに商工会議所のお力をかりながら、みんなで進めていこうという段階に来ていますし、静岡県之三島市が、ことしの夏までにF B良品三島って始めるんですよ。ここがどうやっているかという、三島市の運営協議会に商工会議所、商工会、行政、J A、いろんな方々が入って、そこで掘り出すとか決めていこうというようになりますので、恐らくそういう意味で言うと、三島型ですよ、が一つの流れになっていくのかなというふうに思っています。よく行政主導だとか市長主導だとか言われて批判も受けましたけど、最初はやっぱり仕方ないんですよ、最初は。ですので、ただ、ずっとそれは行政主導ばかりやっていると非効率、不効率にもなりますし、これは僕はNHKの番組でも言いましたけれども、いずれは民間の皆さんたちにきちんとバトンタッチをしていく時期が来るだろうというふうに思っていますので、今はその過渡期にあるのかなというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

全国の自治体の状況は、先ほど部長からお話がありましたが、武雄市の場合と、今、全国展開をされているサイトですね、このサイト自体は武雄市が管理されているのでしょうか。全体的なサイトがありました、F B良品のサイト。この管理運営は武雄市としてされているのか、また、第三セクター方式でされているのか、そこら辺の説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

F B良品については、先ほど部長から答弁いたしました首長クラスから成るF B良品の協議会を立ち上げます。正式にはもう少ししてから立ち上げますけれども、今その時点で、フェイスブックにもいろんなグループをその中につくっておきまして、こういうふうにしたい、ああいうふうにしたいというのを意見集約を武雄市のほうでまずやっています、F B良品全体のね。システムはシーズさんが、株式会社シーズが行っていますので、こういうふうに変えてほしいとか、こういうふうにしてほしいというのは私どもが担当の、この場合は古賀敬弘ですけれども、そこからシーズのほうに依頼をするという流れになっています。意思決定については、これから、規約もできましたので、F B良品の協議会、全国の、今10で、ことし中に多分20から30になるF B良品協議会で大枠の意思決定をし、そこに幹事会をぶら下げます。幹事会をぶら下げますので、もう少し詳細な具体的なことはその方針にのっとって幹事会が決めて、そのシステム的な運用はその協議会並びに幹事会からシーズが受けて、それを正確に軌道させるということになります。私どもの意思決定については、今そのようにしております。

ただ、まさかこれがこんなになると思っていなかったんですよ、これいろんなところで言っていますけど、最初しゃれで始めたのが、もうしゃれで済まなくなって、きょうの佐賀新聞に嬉野市さんがF B良品については慎重と書かれるぐらいになったって、これはすばらしいことだなと。ですが、私どもは別にF B良品に入る入らないじゃなくて、その近隣の市や町とはこれまで以上に一緒に連携をして打って出ようと。

ですので、話は飛びますけれども、例えばシンガポール進出にしても、嬉野市さんとか伊万里市さんとか、特に近隣の市や町とは連携をしてやっぱり動いていきたいなというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

今おっしゃられたF B良品協議会というのと、前立ち上げたF B良品ホールディング協議会、その違いをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは重要な指摘なので、質問をしていただいてありがたく思っているんですがね。F B良品、ホールディングスと言ったときに、やっぱりわかりにくいというお話があったんですよ、わかりにくいって。ホールディングスというと何か持ち株会社というふうになって、英訳するとそうですよね。ですが、その当時、適切な言葉が実は思い浮かばなくて、最初からこれはコンソーシアムとか協議会にしとけばよかったと思っていますので、今後そのホールディングスという言葉は、最終的な意思決定は今後しますけれども、私自身会長なんで、考えは、もうホールディングスという言葉はやめます。ちょっともうこれは紛らわしいから。ホールディングスは格好いいかなと思ってやったんですけどね。ちょっと混乱、また混乱しそうなんで、先ほど申し上げたとおり、最上級の意思決定はF B良品の協議会、運営協議会ですよね、協議会で、実務的なものは幹事会と、それで、システムの稼働についてはシーズさんが行うということになります。その協議会の中は、もう首長クラス、首長のみというふうにしていくということにしていきたいなというふうに思っています。ただ、これは今、佐川急便さんとか、場合によってはヤマトさんも入りますので、そこには広くオブザーバー参加を求めていきたいというふうに思っております。よろしいでしょうか。

〔8番「はい」〕

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

今回の演告で述べられた武雄市の財政にお願いすることなくF B良品の加盟自治体からいただいた貴重なお金でシステム開発とか営業とか広告等を打ってまいるということでしたが、この全体的な協議会、こういう各自治体の持ち出しですかね、それを利用して行っていくということでもよろしいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的にそのように考えております。

先ほど私も演告で申し述べましたけれども、加盟自治体からいただく、月々いただく貴重なお金で、例えばシステム改良に充てる、広告を打つ、佐賀新聞社さん、西日本新聞社さん

にももう少し加盟自治体がふえれば打とうと思っていますが、あるいはこの特集の雑誌、冊子も今つくろうと思っているんです。これちょっと相手がある話なので、出版社の名前は言えませんけれども、恐らくみんながびっくりするような雑誌社と組んでF B良品のカタログを冊子として出すと、その出し方は恐らく15万部ぐらいになります。そういったもろもろについて、単独の自治体だけじゃ無理なんですね。武雄市だけでもとても無理。ですので、幅広く、仕事も割り勘、人生も割り勘という私の根本哲学に基づいて、やっぱり少なくとも出して行って、それで、先ほど申し上げたとおり、システム改良、広告、あるいは営業等々については、その貴重ないただいたお金で運用をします。

ですので、そういう意味でいうと、武雄市に関して言えば、最初一般会計に入れようかなと思っていましたよ、一般会計に。多分僕そういうことを言っていたと思うんですけども、それは多分加盟自治体がそんなことするなよということになると思っていますので、それはF B良品の協議会で再度確認をして、このように使っていくという意味決定をもう一回ちゃんとやろうかなと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

では、武雄市の立場としては、その協議会をいろんな面で支援していくという立場ということによろしいですか。

〔市長「はい」〕

わかりました。

今後の展望につきましては、シンガポールに現地の事務所を置きたいとか、職員の派遣も考えるというきのうの答弁でしたので、この点に対しては省略いたします。

続きまして、図書館について教育委員長に伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

教育委員長じゃない、教育長。

○8番（石丸 定君）（続）

すみません、教育長に伺いたいと思います。

今回の図書館の改修事業は、企画段階や事業実施段階では、市長が言われるところの世界有数の企画会社、武雄市図書館・歴史資料館の指定管理者であるCCC、カルチュア・コンビニエンス・クラブのノウハウを活用するとか、CCCが運営する東京の代官山蔦屋のイメージやコンセプトを取り入れるとの名のもとに、企画会社CCCスタイルの武雄市図書館づくりが行われているように思いますが、スピード感も大事ですが、それ以上に行政を進める上ではもっと丁寧な市民への説明責任を果たすべきではないかと私は思います。

昨年11月15日に図書館ボランティアさん方などに限られた範囲での市民説明会が行われた

ようですが、その後の説明会等はなされたのでしょうか。

イメージ選考の説明だけで具体的な施設の改修等の内容の説明が必ずしも十分になされておらず、市民に対して説明不足ではないのでしょうか。

確かに、議会においては12月定例会に蘭学館の閉鎖や企画展示室の名称の改称の条例の議論はありましたが、しかし、市民向けには11月の市民説明会の折の施設の改修イメージ段階での説明しか行われていないと思いますが、図書館ボランティアなどの関係者や市民の皆さんにもっと具体的な図書館の改修の中身の十分な説明会を行い、図書館ボランティア関係の皆さんの意見を取り入れ、市民みんなの図書館をつくるために公共図書館の本来のあり方についてもっと広く慎重に議論すべきだったと私はと思いますが、教育委員会として教育長はその後どのような対策を行われたのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

御指摘のとおり、11月に市民の皆さんに向けては説明会を行ったところでございます。その後ですけれども、12月議会において、市民の皆さんを代表されているこの武雄市議会においてきちんと御説明をさせていただいた。その後も、市報、あるいはホームページ等を通じて広報してまいったということで御理解をいただいたというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私ね、腑に落ちないのは、よく説明不足って、錦の御旗みたいに言われるんですけど、集会のときもそうだし、一般質問でも、我々はいつでも開催したら行きますよって言って、これはお名前言ってどうかわかりませんが、例えば吉川議員から、ぜひ説明をしてくれということがありましたので、そこには数十人お集まりいただいて、そこでいろんな説明をしましたよ。ですが、石丸定議員さんからは何ら説明会をしてほしいという要望もありませんでしたし、実際私どもに関しては、前の議会でも言いましたけれども、やっぱりこれは狭い市なので、みんな知り合いなのでこういう説明会に私が来たとなると、なかなか厳しいので、説明会をしたこと自体を伏せてほしいという要望があったので、これをもって非公式の説明会と呼ぼうと思っているんですけども、それは数度ありました。私も時間がある限りそこには参りました。参って、そこは賛成の方もいらっしゃれば反対の方もいらして、聞けばよくわかったということを書いて、先ほど部長から答弁があったように、皆さん方に説明するというのが、これケーブルテレビやユーストリームでも流れていますからね、それが我々の最大の説明責任なんです。ですので、余り議員がその説明責任というのを我々におっしゃるといふことは、ある意味、僕は責任放棄だと思わざるを得ません。

ですので、それは余り議員としては、市民がおっしゃるのは仕方ないと思うんです。ですが、一般質問の当事者が、あるいは質問をされるわけだから、それが責任放棄というのは自分の仕事をしていないのと同じだというふうに言わざるを得ません。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

今回の図書館の改修費は私が予想した当初の計画よりも高額、結果的に大きく膨らみ、市が9月補正予算で4億5,000万円を予算化し、CCCが行う改修事業費が約3億円と言われております。この膨大な改修費は11月から2月末までの非常に短期間に行われましたが、改修工事は、9月議会での補正予算の段階の当初の計画どおり進んだのでしょうか。

当初残ると思っていた蘭学館などの歴史資料館ゾーンが12月議会では突然常設展示がなくなるという変更が行われたりしましたが、それ以後のほかの改修工事の変更があったのでしょうか。

大きく膨らんだ改修工事の教育的投資効果を教育委員会としていかが見ておられるのでしょうか。

また、雑誌、文具の販売コーナー、コーヒーチェーン「スターバックス」の店舗設営、CD、DVDのレンタル事業に対する賃貸契約はどうなっているのでしょうか。前回の委員会の質疑で交渉中ということでしたが、賃貸料金と商業スペースの面積がどのようになっているか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

予算の関係ですけれども、9月議会で全体として4億5,000万円の予算をいただきまして、これを執行してまいったというところでございます。

それから、12月議会で蘭学館の部分につきまして申し上げましたけれども、これにつきましては、賃貸のスペースということでございますので、武雄市の予算とは関係なく、CCCのほうで負担をしていただくという形になっておりますので、それ以降の変更は特にないということでございます。

投資効果につきましては、これからまた出てくるというふうに思いますし、現在でも視察の方が非常に多いというようなこともございますし、観光面、産業面、そういったことで効果が出てくるのではないかとこのように考えておるところでございます。

それから、CCCにお貸しをする場所ですけれども、全体としましては、平米でいきますと745平米になります。これにつきましては、年間で約600万円というふうに試算をいたしているところでございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

教育効果についてのお尋ねでございますが、3点ほど考えております。

まず1つは、全国の公立図書館が非常に課題としております、今図書館から遠ざかっている方々の関心を高めることができるのではないだろうかということが第1でございます。

アンケートで、いみじくもこの70%という数値が出てきたわけでありましたが、期待の声でございますが、実際にはやっぱり二、三割の市民の方が利用されているというような全国的な状況の、そのところに大きな変化は考えられるんじゃないかということです。

それからもう1つは、昼間時間に余裕のある人の図書館になっている部分、これが予定しております9時から9時、365日ということで、大きく期待できるのではないかということ。

それから、これまでいろんな頑張りはしてきましたけれども、いろんなサービス面での開発と意欲と、意欲的な開発と、そういう面で官民連携した対応という教育効果が考えられるのではないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

1つ追加をさせていただきたいと思います。

先ほど、武雄市の予算につきましては4億5,000万円ということで、昨年の9月議会ですけれども、財源につきましては、そのときには公共施設整備基金を4億円、それから一般財源を5,000万円ということでお願いをいたしておりまして、公共施設整備基金につきましては、わかりやすく申し上げますと、武雄市の貯金でございます。これを取り崩して充てるということでございましたので、武雄市の財源が4億5,000万円必要だったということでございますけれども、国、県のほうともいろいろ折衝をいたしまして、合併特例債が使えないかということで話を進めてまいりましたけれども、このほど2億7,500万円を合併特例債を使えるということになりまして、これは御承知のとおり、国のほうが後年度に交付税で70%を措置してくれるということになりますので、計算上は国が約2億円を負担してくれるということになりましたので、その分、武雄市の負担が減ったということになります。

いずれにいたしましても、今回、その2億7,500万円の合併特例債を差し引きましても1億7,500万円という一般財源が必要になってくるわけですが、これにつきましては、今回の指定管理制度に移行することに伴って、年中無休、それから、一日でいいますと、9時から9時まで開館ということになりますと、大体経費が1.6倍ぐらいいりますので、2

億3,200万円ぐらいの経費が必要になるわけですが、これを指定管理でお願いしますと1億1,000万円ということになりますので、残る金額が1億2,200万円ということになります。

先ほど申し上げました一般財源というのが1億7,500万円になるわけですが、大体1年半ぐらいで取り戻すぐらいの金額になるのではないかとこのように考えておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

特例債の話は今回の予算のほうで入っておりますので、そのことはちょっと。

ということで、CCCの約3億円の投資の内容は、雑誌文具販売コーナー、スターバックスコーナー、CD、DVDのレンタル事業ということでよろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

そのようにお伺いしております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、ちょっと補足をすればよかったんですが、ごめんなさい。さっき武雄市の図書館ですよね、通称エポカルだったんですがね、これはつくってからもう12年か13年たつわけですよね。そうなったときに、議員は御存じだと思うんですけども、雨漏りであるとか、あるいは電気系統がちょっと一部おかしくなっていたりとか、これは仕方ないですよ。やっぱり10年以上たつと急に経年劣化というのは表に出てまいりますので、そういった中で、改修をしなければいけなかったということもあります。ですので、これは指定管理者に、CCCをお願いするどころの話じゃなくて、その図書館には所要の巨額なお金を投じなきゃいけなかったということについてもぜひ御理解をしてほしいと。それもあわせて、今回、100%ではないですけども、あわせて行っております。修復も行っておりますので、それはCCCの皆さんたちに感謝をしたいということを思っておりますし、五光さんであるとか、いろんな地元の建築会社さんたちにも非常にお世話になりました。本当に物心両面にわたって、こんなによく仕事をしてくれるのかということについてもね、これはこの場をかりて、あわせて感謝を申し上げたいなというふうに思っております。

したがって、井上一夫さんにその5億円を、市民の税金を何か無駄に使うということが書かれてあって、（携帯音）今、携帯が鳴っているところであるんですけど、議場って結構

やっぱり響きますね。

ですので、それはそんなことないですよ。僕らも優先順位をしたときに、無駄に使うとかなんとかというのは全然ないですので、そこもぜひ誤解があれば、そこは解いてほしいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

市長、今の答弁だと、CCCの3億円が改修の、雨漏りとかなんとかに使われているということですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、それは市から出した分の中なんですね。CCCの拋出分というのは、先ほど部長が答弁したとおり、その、販売スペースの、スターバックスを含めてね、という部分で、ちょっとさらに追加しますと、今回情報化、デジタルサイネージであるとかiPadを大量に入れるんですよ、図書館の中に。これについては、指定管理者になる、ならないは別にしてもともと8,000万円というのは投じる予定でしたので、そう考えると、我々は正直言って、これはちょっと言葉ががさつで申しわけないんですが、得していると思いますよ。それでこれだけの、これは黒岩幸生議員とか吉川議員からも再三ありましたけれども、本来行政がやったときのサービスに比べて、もう1億円以上、年間安くなった上に、サービスは365日、朝9時から夜9時まで行われるということからすれば、それは本当に格段によくなっているということで、そう思っているでしょう、もう。ちょっと逆にお伺いしたいんですけども、もういいでしょう。

要は、僕らは誠心誠意説明を尽くしてきたつもりでいるんですよ。誤解の部分というのは、今回の答弁で僕もOSを変えて丁寧に御説明しましたので、納得されたかどうかお伺いしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

納得したかしないかは、そりゃ別に。

今回の改修では、本来附帯施設であるべき指定管理者CCCの商業的利用施設の経営が優先されて、本来の図書館の機能、みんなの図書館が十分に発揮できないではないだろうかということを危惧しているわけです。

CCCは、3億円投資の改修のために図書館利用の対象を全ての市民ではなく、コーヒー

を飲んだり雑誌を買ってくれる商業的利用施設のお客さんである若者を中心とするサービスに偏った運営、経営になり、販売重視のために次第に社会的弱者と言われる子どもやお年寄り、障がい者等、すなわち図書館で金を使わない利用者が使いにくい施設になっていくのではないかということをお慮しておるわけです。教育委員会としてその点どうお考えでしょうか。読み聞かせの部分はどうなるのか、開架スペースは広がるが、閲覧、読書スペースはどう広がるのか、伺います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

今回の指定管理制度への移行に伴いまして、図書館サービスを従前にも増して向上させるというのが目的であるわけですね。今回、CCCと武雄市が協定書を結んでおります。この中で仕様書がありますので、従前のサービス、いわゆる今言われました読み聞かせのサービスなどですね、こういったものは、そのまま引き継いでいく、さらには充実をさせると、市長からもございましたとおり、スペースにつきましても1.4倍ぐらいに広がるというようなこともございますし、ボランティアの皆さんにもこれまで以上に協力をしていただくということで、これは私どもとCCC、それからボランティアの皆様方とも話し合いが進んでいるところでございますし、それに加えて、9つの市民価値ということでサービスを向上させていきたいというふうに考えておりますので、ぜひ新しい図書館をごらんいただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私ね、石丸議員さんと議論を闘わせているときに、大体わかってきたことがあるんですよ。本当にいいことをおっしゃるときというのは、原稿に目を落とさず自分の言葉でお話をされると。だけど、誰が書いた原稿か大体拝察はできるんですが、やっぱり政治家として……

〔8番「ちょっと」〕

ちょっと待ってください、答弁中です。政治家として、やっぱり僕も答弁書なしでしゃべっているんですよ。ですので、そこをぜひ議論を闘わせましょうよ。

その上で僕は申し上げたいのは、許しがたい発言があったのは、私を誹謗中傷されるのはいいですよ、それは構わない。しかし、CCCが今本当にいい図書館をつくらうと思って頑張っているわけですよ。それなのに、あなたは社会的弱者が排除されるであるとか、あるいはさっき、正確にはちょっと僕は申し述べることはしないけれども、できないけれども、そういうふうに排除されるということについては、それは実際あなたが4月1日以降、我々の答弁を聞いた上で、見てから、そう思うのであれば、おっしゃるべき話なんですよ。それが

僕は一般質問だと思いますよ。

ですので、私とすれば、F B良品はあんなにいい質問をされたのに、図書館になると何でこんなに急変をされるかなと思うのは私だけじゃないと思いますよ。

私も冒頭言いましたように、性格を今変えています。性格改造計画なんですよ。ですので、そこはやっぱり立場の違いはあれども、胸襟を開いて市民のためになる、何か一生懸命頑張っている人たちを落とし込めないような（発言する者あり）いや、落とし込みですよ。ですので、そういう発言を、僕は石丸定議員さんだったらできると信じていますので、ぜひそういう意味で、同じ目線で政治家として議論を闘わせていきたいなど、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

ちょっと議長いいですか。今、市長の誰の原稿かわからないとおっしゃいましたけど、自分の原稿ですよ。

〔市長「はい」〕

私はこういうことを聞いてもらいたいと、市民の意見、皆さんの意見をできるだけ正確にお伝えしたいということで、間違いがないように原稿を読んでいます。それを読まないと、またいろいろ言われるっですもんね。そうじゃないですか。だから、人の原稿をどうのこうのというのは撤回してもらいたいと思いますよ。（「そうそう」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

いやいや、撤回ではなくして、私は自分の原稿を読んでいますよと、あなたの反論でいいわけですよ。討論を闘わせていますので。それが物すごいきつい言葉とか、ふだん使用していない言葉だったら撤回を求めますよ。しかし、私は、いや、自分の原稿を読んでいますよと石丸議員の反論だけでいいわけですよ。ですから、それを言ってください。（「質問者が言いよっけん、よかろうもん」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）8番議員、質問を続けてください。8番石丸議員（発言する者あり）静かに。

○8番（石丸 定君）（続）

がやがややかましくて、ちょっとわからんごとなるですもんね。すみません。それでは、もういきます。

今まで市から図書館の内容ですかね、イメージ図というのを見せてもらいましたが、このイメージ図どおりに書架の高さが今まで以上に、1階の部分も2階の部分も高くなるような話ですけれども、改修前の高さで改修後の高さの、書架の高さを教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

書架につきましては、開架を20万冊ということにいたしますので、スペースの関係もありますので高くなります。2階につきましては3.9メートル、それから、1階につきましては、全部ではございませんけれども、4メートル五、六十ということになりますので、高い部分につきましては、そのまま器具を使わないと届かないということになりますので、高い部分の書架を希望されるときには係員に指示をいただければ係員がお出しをするという形にしたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと補足をします。去る3月9日に建築基準法に基づく検査と消防法に基づく消防の検査、あわせて行っていただいております。最終的な確認というのは、出ていると思うんですけど、まだ私には届いていませんけれども、基本的に問題はないということを知っておりますので、そういう意味でいうと、法あるいは条例等についてきちんとなされていると。

私も数回そういう御指摘がありましたので参りました。ですので、高く積み上げてあるところについては、本の落下防止のものがあったりとか、キャットウォークが幅広くとってあって、仮に万が一それが落ちたにしても、下に落ちないようにガラスの構造物があって、それをちゃんとストップするという二重三重の防止策をとっているということは私も信用いたしておりますので、ぜひ御安心して御活用をしていただければありがたいかなと、かように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

手が届かないところは係員さんが脚立かなんか使ってとってくださいということでございますね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、本来なら教育部長が答弁すべき中身なんですけど、すみません、建築基準法に基づく検査は3月8日の、9日じゃございません。8日の間違いでした。慎んでおわびを申し上げたいと思います。

それで、先ほど手の届かない書籍については、係員の方に申し出ていただいて、そこからとるということになりますので、そういう意味でいうと、一般の方が手の届かないところに乗るといふようなことは考えておりません。

もう1つちょっと申し上げたいのは、本もいろんな種類があつて、すぐ手に届く、いわゆる人気のある本ですよ、平たく言えば人気のある本はなるべく手にとりやすい手元にあるということ、それと、児童図書等については、もう上背もありますので、そこは書庫、物すごく書架が低くなっています。低くなつていて、子どもたちのスペース、1.4倍になるスペースの真横に置いてありますし、なかんづくそのスペースの真横には、赤ちゃん、読み聞かせ用の絵本であつたりとか本が配置されているということになっていきますので、場所場所に応じてそういうふういきめ細かく設定をしていますし、先ほど申し上げました届かないところというのは、基本的に今まで誰も借りたことがないようなものについて出しているということになりますので、もうぜひ御心配はなさらないで、ぜひ市民デーにね、3月30日にぜひまたお越しただいて、そのときにまた自分御自身のお考えをまとめるいいきっかけになるのかなと思いますので、ぜひ3月30日にはお越しをいただきたいというように思つて――31日かな。（「31日です」と呼ぶ者あり）31日でしたね。このごろ、すみません、よく間違えて。3月31日です。午後から市民の皆さんたちに開放をいたしますので、開館前にね、ぜひお越しただければありがたいというふう思つております。その際は私自身もいますので、石丸議員にしっかり説明をしていきたいと、このように思つております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

今週の月曜日に図書館カード申請に行つてまいりました。私はTカードを利用しないために普通のカードの更新という感じですがけれども、Tカードを利用しない人は現在のカードでよかわけですもんね。現在のカードを利用するため、そのままつくるために何で改めて申請せんばいかんとかなと思つて、現在ある利用者カードのデータを、もうそのまま使う人はそのまま移行するだけでよかったんじゃないかなと自分は思いました。

ちなみに、同意書を書きましたが、同意書をずっと、名前とか全部書いて、免許証を見せて、「免許証の番号を控えていいですか」と言わしたけん、「いかん」て言うぎんたもらわれんぎいかんけんにと、「はい」と言いました。免許証番号が何のため必要だったのかなと思いましたが、そこら辺何かわかりましたら、説明をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

今月号の市報にカードのことにつきまして記載をいたしております、このような形ですがけれども。（資料を示す）現在の図書利用カードにつきましても、これはそのまま使えるということになっております。ただ今回は、有効期限を設けるということにいたしておりますので、手続をお願いしているということでございます。

それから、本人の確認ですけれども、本人確認は、御承知のとおり、免許証があれば一番いいわけですし、そのほかにも健康保険証でありますとか、そういう本人を確認できる書類が必要だということで、免許証の番号までということで、石丸議員さんは番号の控えは要らないんじゃないかというお考えだというふうに推察をいたしましたけれども、番号をもって本人さんを確認するというにいたしましたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

私は単純に、免許証を見れば本人確認ができるからそれでいいんじゃないかなと思ったわけです。

私はTカードを使用しませんので、スターボックスの無料券やCD、DVDのレンタル券はもらいませんでしたが、これはCCC独自のサービスということでよろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

これはCCCのサービスでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

改めて個人情報図書館利用以外に利用されることはないと、また、貸し出し履歴は返却時に削除されますという説明でありましたが、武雄市としては読書履歴は個人情報であるという認識でよいのでしょうか、改めてお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

本人が特定されるそのような情報であれば、それは個人情報だというふうに思います。私どもは、今回は本人にひもづかないものにつきましては、本人は同意の上ですけれども、少し説明させていただきますと、今回、図書館システム内の情報、それをポイントシステムへ幾ら行くのかと、どの程度の情報が行くのかということになりますけれども、4つございます。1つは、Tカードの番号でございます。それから、使用された年月日と時刻ですね、それからポイント数、この4つに限って提供するもので、本人が特定をされないということであり、かつ本人の同意も得ているということで、個人情報についてはしっかり守られるというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

次に、蘭学・企画展示室の今後の利用方針について伺います。

4月の図書館の指定管理者制度のスタートとあわせて歴史資料館の展示内容や展示方法の改善を行い、ますます充実されることと思いますが、今後、蘭学展示室の運営は歴史資料系の歴史展示と図書館側CCCの利用はどのようなバランスで考えておられるのでしょうか。

図書館・歴史資料館の複合施設としての誇るべき武雄の歴史の展示は、武雄市にとってこれからの人材育成やまちづくりのために極めて大切であり、展示を充実させ、市民の期待に応えるべき。また、蘭学・企画展示室の展示については、歴史資料系の展示利用を最優先すべきだと思いますが、新しい蘭学・企画展示施設の展示はどのように考えておられるのでしょうか、伺います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これもまた蘭学館をつぶしたとか、いわれのない差別的発言を多々受けておりますので、ここは正確にちょっとお答えしたいと思いますかね。

今度の条例改正で御決いただいた蘭学・企画展示室ですよ、新しく蘭学・企画展示室は、今まで結構あいている、使わない時期がやっぱり長かったんですよ。長かったのも、我々はこれじゃいかんということで、4月1日、月曜日、これはオープニングの日なんです、武雄鍋島家と蘭学ということで、これは極めて貴重な資料をお見せしたいというふうに思っています。もちろん保護はもう前提なんです、ちょうど今回、九州国立博物館で「江戸のサイエンス」、武雄鍋島家の近代科学が開催されるのに合わせて日本近代の出発点と衆目一致しています武雄の蘭学を紹介し、改めて武雄に残された貴重な蘭学資料を身近に感じられる展示を行いたいということを思っています。

そして、先ほど申したのが、4月1日から6月2日です。今度公募展をやろうと思っていて、6月15日から6月30日は、これについては公募規定で教育委員会のほうで決定をしていただくということになろうかと思えます。

3つ目が、武雄と言えば温泉、焼物です。武雄鍋島家温泉焼物展を、これはまだ仮称なんですけれども、7月13日から8月15日まで行いたいということを思っています。

そして、これまだ仮置きなんです、せっかくこれ注目が多分全国から多くの方が、きょう何か僕がフェイスブックを見てたら、シンガポールからも多くの方が武雄図書館を見たいということが来ていますので、できれば8月24日土曜日から9月23日のところまで図書館展をやりたいということを思っています。これは、私どもが指し示す図書館像であったりとか、全国すぐれた図書館があります。これは直営でも指定管理者でもありますけれども、そ

ったものを一堂に会する、去年はフェイスブック学会をやりましたけど、じゃなくて、図書館展をやりたいと、これは教育委員会と市で力をあわせて盛り立てていきたいなと思っております。

10月5日から11月10日までは武雄に残る絵図ですよね、絵図。これは伊能忠敬さんが、私はまだ会ったことないんですけども、武雄を測量してから200年目に当たりますので、それを奇貨としてこういった展示を行うということ、それと、11月16日から12月1日は、第2回の公募展を開催していくということになります。そして、ことしの目玉は、南砺市と私も、議会も南砺市に行っていてお願いをしていただいて、そこで棟方志功展、南砺にしばらく疎開をされていたと、もちろん青森の御出身の日本を代表する版画家、画家であるんですけども、その方が南砺市で大量の作品を、しかも、今まで見せたこともないような作品を、それを中心に棟方志功展を12月14日土曜日から1月13日祝日まで行くと、これは年末年始はもう関係ありません。ですので、棟方志功展が恐らくことしの一つの大きな、これも自治体連携なんです。自治体連携がうまくいっていて、これは武雄市議会に本当に感謝したいんですけども、南砺市さんも武雄市議会を物すごく評価をしていただいて、あの武雄市議会にないばということで貸してくださるといことだそうです。

それと、これが最後にしますけれども、2月1日、来年2月1日から3月16日まで、これ特別企画展ということで武雄の蘭学、九州の蘭学ということで展示を行っているということになりますので、今まで以上に展示を拡充するというのは前々からお約束していたとおりでありますし、それとあわせて、私どもとしては、今のメディアホールの部分を活用して、いろんな講演会とか講習会をやっていくということは、これはCCCと力を合わせてやっていきたいと思っていますので、切れ目なく武雄からいろんな情報の発信であるとか、蘭学を中心にした情報の発信、情報の共有ということを行ってまいりたいと、このように考えております。

あわせて、そういった展示物があるときは、今までできなかったんですけども、武雄の図書館に入ったところにその特集コーナーをつくります。特集コーナーをつくって、図書館と蘭学・企画展示室がちゃんと連動するように、せっかくスペースが同じところにありますので、連動するように、連携するように仕掛けをしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

指定管理料は当初の予算の段階に積算したものでございますが、改修効果や民間のノウハウを活用した節減等により、実際の必要経費は毎年減ることが予想されますが、指定管理者の経営努力もありますが、最小の経費で最大の効果をとられている市の財政の立場から言え

ば、指定管理を5年間の固定ではなく、年次年度で、次年度以降は実績で再計算をしていくべきではないかと思いますが、教育委員会としてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはちょっと指定管理者そのものですので、担当がちょっとこれは市長部局になりますので、私からちょっと答弁をお許しいただければと思うんですけども、基本的に指定管理者のルールで、例えば3年なら3年、通常5年なんですけれども、5年で、決まっているんですよ、それ、そういうふうに。これはもう再三説明しております。ですので、決まっておりますので、今般CCCのほうに年間1億1,000万円ということでお渡しをするということになります。

ですので、そういう意味でいうと、我々は法治国家ですので、ルールに基づいて粛々とやるということが行政の最大の役割の一つでありますので、それに基づいて行っております。確かにお気持ちはわかるんですよ。1億1,000万円していたら、例えば9,000万円で済んだといたら、それは9,000万円にすればいいじゃないか、これ逆もあるんですよ、1億1,000万円できていて、例えば1億3,000万円かかったからとなると、それは市にとってどっちが有利か不利かというのは一概に言えない話なんですよね、市にとって。ですので、私は法で定められているとおり、やっぱり例えば3年間なら3年間、うちは今回5年なんですけれども、年間1億1,000万円ということについては、ベストじゃないかもしれないけれども、妥当であるというふうに判断をしております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

最後に、4月1日の新しい図書館のオープン後の図書館運営につきましては、公立図書館の本来のあり方について関係者や市民の意見を聞いてもっと広く慎重に議論しながら、よりよい方向に進めていただけることをお願いいたしまして、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で8番石丸議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、5分程度休憩をいたします。

休	憩	11時16分
再	開	11時22分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、10番古川議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、10番古川盛義の一般質問を始めたいと思います。

早速質問に入ります。

先月、2月9日、10日の両日、大変寒いときに飛龍窯灯ろう祭りが開催されました。祭りの会場は人、人、人、もう黒山でございました。シャトルバスも、来るバス来るバスみんな満員というような状況でございまして、どこからこんなにたくさんの方が来ていただくのかと驚くばかりでございました。灯ろう祭りも武雄の一大祭りになったのかなと思うところでございます。これもひとえに市長以下、営業部、観光課の皆さんの努力のたまものと感謝するところでございます。本当にありがとうございました。

まず、お尋ねをいたします。

本年の入場者数、昨年と比較してどうであったのか、また、イベントとか会場設営、告知の方法など去年と変えられたところがあれば説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

まずもって議員さんを初め、武内町の区長会、公民館長会、竹古場キルンの森運営協議会等の地域の皆様、そして、当日会場にお越しいただきました多くの皆様に対して、今回の成功に厚くお礼を申し上げたいと思います。

ことは2月9日、10日で開催したわけですがけれども、両日とも天候に恵まれまして来場者数は3万6,000人、1日目で1万6,000人、2日目で2万人と、昨年より20%の増というふうなことで、昨年は3万人でした。（モニター使用）これが2日目の昼の人出の状況であります。これが夜の状況で、人出でいっぱいというふうな状態でありました。当日アンケートの集計をとりましたけれども、来場者数の割合としましては、県内が48.7%、これが市内で18.3%、佐賀市あたりから9.6%というふうなことでございます。それから、県外から51.3%の方が見えていると、半分以上の方が県外というふうなことになります。特に福岡県が30%、それも福岡市から10.1%、北九州市から3.4%と、それから長崎県から13%というふうなことで、県外からも多くの方が見えられたところであります。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

今聞きますと3万6,000人ということでございます。武内の人口が2,500人強なんでござい

ます。2日間に14倍強、15倍近くの人が、今画面にありましており狭いところに集まるわけでございます。そういうことで、地元のいろんな各種団体の方も何とかせにゃいかんということで、いろんな方面に協力をしていただきました。その準備とか、運営とか、連携とか、そこら辺の市との連携などはうまくいきましたでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

先ほどの答弁の少し補足をしたいと思っておりますけれども、特に昨年から変わって力を入れた――モニターをお願いします。（モニター使用）ところで、ことしからイベントとしてフェイスブックによるフォトコンテストの実施をしたところでありまして、これによって応募件数が100点を超す応募があったというふうなことになっております。

それから、これが広域連携を行っている奈良市からの燈花会の実演というふうなことで、灯籠の提供といいますか、借りてやったところでもあります。

それから、会場設営につきましては、側溝や階段などの安全対策の強化、それからシャトルバスの増便、それから周辺駐車場の確保と、来場者の利便性を図ったところでもあります。

それから、情報発信としまして、雑誌「じゃらん」や「福岡ウォーカー」、それからJR佐賀、福岡、長崎の各駅にポスターの掲示、それからフリーペーパー、新聞等での告知、テレビ、ラジオ出演、フェイスブック、ブログなどで情報発信に努めたところでもあります。

続きまして、祭りの会場の設営状況、地元との連携というふうなことでもありますけれども、祭りの会場の設営、撤去につきましては、武内町の町民の皆さん、区長会、分館長会、消防団、体育協会、キルンの森運営協議会などから7月7日から11日の期間に延べ150人の皆さんに御協力をいただいたところでもあります。また、当日には地元の食材を生かしたおでんや豚丼の販売、それから飛龍の里でのうどんの販売、出店していただき来場者を楽しませていただいたところでもあります。また、準備に当たっても豚汁などの炊き出しやピザ、運営ではJA武内女性部、あるいはボランティアのわかばの会、婦人会の皆さんなどの多くの方に協力をいただきました。これが地元の協力による灯籠の設置状況です。それから、11日には武雄高校の野球部の皆さん25名に灯籠などの回収も手伝って、ボランティアで手伝っていただいたところでもあります。

今回の祭りにつきましても、このように地元の協力なしでは絶対になし得なかったと思っております。本当に心から感謝申し上げたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

ことしは昨年と比べてシャトルバスが増便をされて、祭り会場に人があふれるというよう

な状態でございました。市からも公民館の建設予定地に臨時駐車場を設けていただきまして、そこもいっぱいになるような状況でございました。

そこで、シャトルバスの運行などに問題はなかったのか。それから、私一つこれ提案でございしますが、大川か柳川からお見えの双子の女の子の赤ちゃんをベビーカーに乗せてきてあったんです。そしたら、その赤ちゃんが泣きよるわけですね、わんわんわんわん2人とも泣きよるわけです。それで、そのお母さんに「何したですか」と言ったら、おっぱいばやらんば時間なんですよと、どっかなかですかというようなことでした。私も実をいいますと、子育てはうちの家内に全て任せて、そういうことに気の回るような男ではございませぬので、言われて、あいたと思いました。それで、ある市の職員の方に、どこでおっぱい飲ますっぎよかろうかと聞きました。そしたら、工房の中に一番隅のところに椅子を持ってきて、ここでどがんでしょうかということで授乳を赤ちゃんに、おっぱいをやってもろうたんですが、広い場所は要らんわけですね。そいけんが、ちょっとしたところを授乳場所と、おむつの交換場所というようなことで、ひとつ検討していただければなと思うところでございしますが、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

その授乳室の話、私もお困りの方から伺っていますので、これは地図にきちんと明記をした上で、そういうスペースを来年はとりたいと思います。

ですので、これに限らずさまざまな御要望とか苦情もありますので、できる限り誠実に、謙虚に踏まえたいと思っていますので、そういった御意見は、もうぜひまたお寄せいただきたいと。やっぱり今回よりも次がもっとよくなるように努力をしてみたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

それから、一つ私、シャトルバスが運行するときに西ノ角のT字路ですね、実を言いますと、本来はもうでけとかんばいかんとですけどね、松浦川の河川改修がおくれまして、河川改修と同時に亀ノ甲から西ノ角までの市道の道路改修をするということに、話になっておりました。河川改修が相当おくれましてなかなか進みませんが、その西ノ角の飛龍窯から出まして右のカーブのところに倉庫があるわけですが、その倉庫のですね、以前もお願いしたことあると思うんですが、角切りをぜひしていただいて、とにかく左右両方向通行ができるように検討していただけないものかということですが、どのようになっていますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

先ほどの質問に対してのちょっとお答えをしたいと思いますけれども、昨年の反省を生かしましてシャトルバスの増便、ことしは大型バスを6台、マイクロバスを4台ということで増便をして対応しましたけれども、来る方と帰る方が一定時間に集中しまして、どうしてもシャトルバスを待つ時間が長くなったというふうなことで大変申しわけございませんでした。

モニターをいいですか。（モニター使用）これが駐車場へバスを待つ方たちの列なんですけれども、行き先を定めてずっと待ってもらったというふうな状況になっております。

先ほど指摘がありましたように、西ノ角の交差点付近で、それでも交通渋滞が発生しましてシャトルバスがスムーズに運行できなかつたというふうなところで、一時的に運行の状況を説明できないまま駐車場にお待たせしたというふうなことで大変申しわけございませんでした。先ほどの授乳所の問題を含めて、周辺駐車場にもトイレを設置してくれというふうな要望も上がっておりますので、よりよい祭りにできるように来年検討をしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

御指摘の西ノ角の交差点でございます。これ御存じ、先ほどおっしゃいましたように、松浦川の改修がおくれております。したがって、私どもは計画を持っておりますので進めたいわけですが、現在そのところはネックになっておりますので、地権者の方と交渉を行っております。できれば早目にそこだけでも着手したいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれ、足の話はやっぱり深刻なんですよね。シャトルバスについては前の、去年の議会でも御指摘がありましたけど、増便をすると。それと、恐らくまた来年のバレンタインデーのときはさらに人がやってくると。だから、もうシャトルバスが追いつかないんですよね。ですので、ちょっとこれ、今回もありましたけれども、タクシー会社に協力要請をしようと思っております。ですので、ここに物すごく寒い中に1時間並ぶというのは、ちょっとあり得ない話なんですよね。ですので、もう少しタクシー乗り場をきちんと拡充して、そこにき配置をね、大体帰る時間は皆さん一緒なんですよ。ですので、そういう場所をきちんと確保した上でタクシー会社に協力を要請するというのと、あと、ちょっとこれ僕がやっていることは思いつきとよく言われますので、あえて思いつきを申し上げますけれども、あ

とバス会社にちょっとお願いしようと思って、臨時便、例えば、祐徳さんであるとか、唐津の昭和さんであるとかにお願いをして、可能な限りやっぱりね、我々がやるシャトルバスだけでは到底間に合わない。ですので、そういった民間の運送をやってくださるタクシーであるとかバス会社であるとかにきちんと協力を要請したいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

灯ろう祭りも、とにかく人でいっぱいでした。聞くところによると、武雄市の旅館もいっぱいであったと聞きました。それで、武雄市に及ぼす経済効果というのはどのようにやはり判断されているか、聞かせてください。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

経済効果ということですが、祭りの後に市内の旅館、ホテルに直接訪問をしたり電話で聞き取りを行って灯ろう祭りの期間中の宿泊数、宿泊の状態を聞き取りしたところがあります。3連休と重なって宿泊施設はどこも満室状況でありました。また、楼門周辺では入浴客で大変混雑したというふうなことも聞いておりますし、楼門前からのシャトルバスの利用も多くて、確実に宿泊施設につながっているというふうなこととっております。旅館の中には、灯ろう祭りに合わせたプランを企画されて、着実に冬のイベントとして定着しつつあるというふうなことを実感しているところであります。

それから、市役所の駐車場も満車状態で、周辺の飲食店にも若い人たちが大変にぎわっていたというふうに聞いておりますし、灯ろう祭り会場での物販販売も昨年と比べて大幅にアップ、20%以上アップしたというふうなことで理解をしております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

そしたら、次の質問に移ります。

次は、お結び課でございますが、私が18年の12月だったと思いますが、少子化対策で結婚対策はできるのかということで質問をしたことがあります。今お結び課ができて2年半経過しております。現在の活動状況と、県内のほか市町の状況を教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

まず最初に、現在の状況ということから答弁したいと思いますが、現在の登録者の数が

405名ということになっております。紹介の件数についてはこれまで延べで988件、約1,000件ということでございます。

それから、相談件数につきましては867件、お見合いを実施した回数については125組、それから、イベント開催が2回ということで、これまでの実績として実施をしてきたところでございます。その結果、成婚者の数、いわゆる結婚に至った方が22名いらっしゃいます。会員同士についての結婚というのが3組、つまり6名と、それから、会員外の方との結婚が16名ということで合計22名ということでございます。なお、参考までですが、現在交渉中の方も（「交際中」と呼ぶ者あり）失礼しました、交際中の方も10組ほどいらっしゃいます。

他自治体の状況ということでございます。すみません、緊張しております。1月末現在で伊万里市さん、登録者については478名ということで、成婚者数については26名、ほぼ人口規模等からいうと、どっこいどっこいかなというところでございます。嬉野市さんが、これは発足は23年の7月からでございますが、登録者の方が90名と、その結果、成婚者が2名ということをお聞きしております。その他みやき町については登録者は40名、それから神埼市さんについてはマイルド婚活事業という形で実施されているそうです。基山町については、消防団員の方を対象にしたイベントを開催というような形で聞いております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

昨年の9月の議会で松尾初秋議員より、公務員の登録ばふやさんばいかんばいと、そいが一番早道ばいというような話でございました。公務員の登録数はふえておりますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

公務員の方の登録者の数でございますが、昨年の9月時点では22名いらっしゃいました。3月現在で33名ということで、11名の増になっております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

補足をしますけれども、公務員じゃないですけれども、今度はCCCの方々が十数名武雄に移り住んでこられますので、特典としてお結び課の登録を私のほうからお願いしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

CCCの方もということでございますが、今405名ということですが、その年代構成、登録の年代構成などをちょっとお知らせください。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

モニターをお願いします。すみません、前の方の終了の仕方をわかりません。（モニター使用）登録者の現在の状況でございますが、男性と女性に分けて説明したいと思います。

男性の方は平均年齢が43.2歳、20代の方が5.7%、30代36.2%、40代の方が33.7%、50代以上ということで24%、つまり40代以上の方が半分以上という状況でございます。

一方、女性の方ですが、平均年齢が37.5歳ということでございまして、20代の方が13.2%、30代が56.6%、40代が23.9%、50代以上6.3%ということになってございまして、どちらかというと女性の方が若い方に登録していただいているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

この図を見ますと、男性の7割が30代、40代、女性の方も20代、30代で7割ぐらいですか、ですね、40代が24%。このうちの半分でも結婚されれば少子化は多少解消するのかなと思うところでございます。

非常にお結び課には私、質問しにくかわけです。実をいいますと、お結び課長さんは私と同郷、多々良でございまして、私の先輩でございます。非常に気つけながら、きょうは何と言われるかわからんですけど、ちょっと質問ばせんばいかんとですが。

ある人から登録はしたと、しかし、何も連絡のなかと、電話もなかと、どがんなっとおとやという質問でございました。登録をしたら、すぐ連絡のあると思うともちょっと間違いのところもあるかもわかりませんが、登録をしたら多少やっぱり期待もして登録をされておるわけです。そいけん、そこら辺のフォローをどのようにされておるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

確かに登録をしていただいて1年を経過しても一回も紹介できていないという方はいらっしゃいます。先ほどグラフでお示しをしましたように、やはりある一定の年齢以上になるといような状況になると、なかなかマッチング、お互いに条件が合う方を一致させるというのが非常に厳しくなってくるという状況がございまして、こういった状況もございまして、

登録時については、登録の際については相手のある話ということでございますので、絶対紹介できるという保証はない旨の御説明は申し上げておりますが、こういう場合、市内の方については、直接本人に状況については連絡をするようにしているところでございます。今後とも、経過については密に連絡をしていきたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

405人の登録者は、いろんな事情、御家庭の事情、個人的な事情があって、困られておったということで、勇気を出してお結び課に登録をされたということでございます。これも勇気の要るですね、多分、私ちょっと自分でわからんですけど。そいぎ、最近、テレビで合コン、さあ、いらっしゃいといって何かようしよるですね。武雄は1対1を主にすることでしたが、そういう合コンというのですか、そういうふうなこともしてみたらどがんかなと思うところでございますが、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

おっしゃるように武雄市の場合は登録をしていただいて、それぞれの方の条件をお聞きしまして、条件のそろう方をお見合いしていくというシステムで、そこにポイントを絞って、そういうやり方をこれまでできております。

なぜそういうふうになっているかと申しますと、女性の大半の方が1対1という形を希望されているという状況がございまして、まず1対1を優先してやってきたという経緯がございまして。ただ、そういう誰でも参加しやすい状況をつくるというのは非常に重要というふうに思っておりますので、先ほども説明しましたように、イベント型という形でこれまで2回実施をしてきたところでございます。企画そのものは3回実施をしましたが、そのうち1回は女性の参加者が少ないと、先ほど申しましたような理由で女性の参加者が少なかったということで1回は中止した経緯があります。

今後、出会いの可能性を広げるという目的で、近隣の自治体のほうにも呼びかけをしまして、広く出会いの場をつくっていききたいというふうを考えているところでございます。6市3町が集まって合同の婚活イベントなんかができないか、こういうことも現在研究を進めたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

ぜひ、大勢でわあわあ言うてするのも、1対1でするのもいいでしょうが、そっちのほう

もいいのかかと私個人で考えております。

婚活事業というのは、とにかく大変な事業でございます。一朝一夕にはいっていき事業ではございません。これは十分わかっております。1組、2組でも結婚に結びつけば、その関係者の方は幸せになるわけでございます。その方が幸せになれば、結局その地域すべてが楽しくなるということでございますので、今後もとにかく、お結び課長さん、毎晩毎晩遅くまでお見合いの会場でお世話をいただいております。ですが、もう一頑張り二頑張りしていただいて、とにかく早く結びつきができるように頑張ってくださいようお願いしまして、次の質問に移ります。

武内町におきましては、町民の念願でございました公民館建設が市長、執行部の御尽力のおかげで来年の今ごろは建設が完成しているものと思います。現在、武内町の区長会を中心にしまして、武内産の木材を公民館に使おうということで各区から区の負担によりまして、その材木を今準備中でございます。町民全てが期待していることでございます。町民になりかわりまして厚くお礼を申し上げます。

公民館建設について市長の思い、市長のお考えなどの一端をお聞かせ願えればありがたいと思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

間もなく正午となりますけれども、議事の都合上、一般質問を続けさせていただきます。

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もともと武内町の公民館は、本心から言うと余りつくりたくなかったんですよ。いや、本当に。なぜかという、うちも財政大変、大変なんです、白濱区長さんという名物区長がいるんですよ。白濱区長って。この方が何度も何度も要望に来られた。それも、お一人だけじゃなくていろんな関係者の方を踏まえてお越しいただいたと。やっぱり熱意は通ずるものだ。熱意を——もう来んでよかと言うたんですよ。僕もいろいろ仕事のあるけん来んでよかというぎ、余計来んさったですもんね。ですので、私もどっちかといったら性格はしつこいほうなんですけど、白濱さんには負けます。やっぱりそういう単につくってくれじゃなくて、公民館を使ってこれだけのことをしますということを本当に、それで飛龍窯の祭りも踏まえて、ここ駐車場に使ってもらっても結構だということ、あるいは市の行事であるとか、僕はね、びっくりしたのは、他町のイベントもぜひ公民館を使ってくださいと、武内は昔そういう意識があったということをもう本当に切々とおっしゃるんですよ。ですので、私もそうなんですけど、教育長も副市長も根負けしました。完敗です。ですので、これ以降は私も気持ちをきちんと切りかえて本当に武内町の公民館が町民の皆さん、そして市民の皆さんの誇りになるように私自身も微力ですけど応援をしていきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

ありがとうございます。

今度、公民館を中心に全公民館長、武内公民館長さんが一生懸命されまして、今、「新我がふるさと武内町再発見」という地元の歴史とか祭りとかいろいろ書いた本を発行、きれいな本でございます。全戸に配付されたところでございます。公民館の建物というハードの面は整備ができると思いますが、町民のよりどころという観点から申しますと、今からもソフトの面いろいろと市当局に御指導をいただかなければならないと考えます。今後なお一層の御指導をいただきますようお願いをいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で10番古川議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	12時1分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、21番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまより若木町、自由民主党、牟田、一般質問を開始いたします。

タコじゃないです、蛇です。へび年だから蛇ということにしました。蛇というのは、多くの方は嫌いな方多いですよ。嫌いというか、苦手な方多いと思います。蛇にまつわる話はいろんなところで話が、もう既にへび年だからあったと思うんですけども、多くの商業高校、商業系の大学、蛇を校章にしている、学章にしているところ多いんですね。それは何でかという、蛇は商売の神様というふう認知されているから。だから、ことしはへび年、今、F B良品、シンガポールで話題になっています。商売の年へび年、ぜひこれから羽ばたくような形でやっていただければと思っております。

そしてまた、同じへび年で、こういうのですね。これ、前、1回言ったかもしれませんが。「佐賀のたる蛇、薩摩の芋づる」、これ、覚えている方もいらっしゃるかもしれませんがけれども、佐賀のたる蛇、どういうことかともう1回説明しますね。たるの中に蛇がいっぱい入っている。そうすると、元気がいいのが外に出ようとしている。そしたら、みんなで寄ってたかって落とすんですね。出させない、外に。次に元気がいいのが出ようとする。また、み

んなで足引っ張る。これは佐賀のたる蛇ということわざで、これは明治時代の言葉らしいです。薩摩の芋づる、（発言する者あり）そこに続くわけですね、これから。薩摩の芋づる、薩摩の芋づるといふのは、薩摩はぶわっと引っ張ったら、一緒に芋がついてくる。みんなで共存共栄しよう。これ、明治時代、明治時代で佐賀で偉人というものは少なかったです。今、いっぱいいらっしゃいますよ。でも、例えば、東京に出た江藤新平とか、そういう方々は、佐賀の中ではそういうふうにして足を引っ張る。そういうふうな風土があるというのが、明治時代にこの言葉が出たらしいです。

ですから、市長がたびたびここでおっしゃっている。私もそう思うんですけども、前向きに一般質問をしようよと、足を引っ張るんじゃない。やっぱりこういうふうにならなかって武雄を盛り上げよう、薩摩の芋づるじゃない、武雄の芋づるになりましょうよと、そういうふうな形で、私も一般質問をしたいと思います。いろんな形で、ネガティブじゃいけません。やっぱりポジティブに武雄市も一緒になってやらなきゃいけないというふうに思っております。

例えば、この議会の一般質問だけじゃなくて、いろんなところでも、例えば、私の辞任についてうそ書く赤い新聞とかですね、何とか通信でうそをついて、もうそういうふうなのじゃなくて、もうネガティブじゃなくてポジティブに行こうと思っております。これから私の一般質問も、きょう、区長さんたちも来ていらっしゃっています。地域の代弁者、地域の声として前向きの質問をやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

これは、3.11のときに行きました。武雄市はほかの自治体よりも、私はこういう災害地、災害に関して認識が深い市だと思っております。やっぱりこうやってすぐ行った。これは市長、吉川議員、こう運んでいるところなんですけれども、やっぱりこういうふうな、これも一つの原体験だと思うんですね。我々が初めて東北災害後行ったとき、もう本当にとめどなく悲しくて、もう本当にやるせないほど切なかった、無力感を感じた。でも、1件でも2件でも助けたいという気持ちが働いて、一生懸命泥まみれになりながらやった、この原体験が、例えば、執行部側の市長、議員も含めてですけれども、そういう災害、市民の安心・安全につながっているんじゃないかというふうに思います。

ちょっとしばらくこの画像を使うんですけども、こうやって、これ、誰やったかな、上田さんかな。（「上田議員」と呼ぶ者あり）上田議員かな。これ、僕です。ちょっと1つぐらいは入れんぎいかなんと思っております。これ、さっきから来ている、これがずっと一面続いていたんですね。こうやってずっと処分をしながら、こういうところを全部処分して、これ、バイクがもう流れ込んできているんですね。これ、本当に忘れちゃいけない3.11、東北、こういう中を、これを処分していかなきゃいけなかった。さっきいっぱいあったとを、こうやってずっと平らにずっととって、こうやって、全部とった。これは、誰やったですかね、積算したら10トン車十数台分を撤去したと、これも本当に無力感は漂う

けど、1件でも2件でも手伝いになればということでやりました。そういう体験、原体験が安心・安全というところに、外にも、この武雄市にも向かって、これからもやっていってもらえると信じています。

これは、そのとき終わった後の集合写真ですね。こうやって、今、東北のほうで活躍している古賀龍一郎職員さん、あと、上田哲也さんですかね。

〔市長「上田哲也はおらんよ」〕（「おるおる」と呼ぶ者あり）

おりますね。はい。やっぱり一緒になって頑張ってくれました。こういうふうな原体験があります。こうやって雑魚寝でやりました。これ、頭は私です。こうやって雑魚寝だったんですね、ずっと。さっき行った現場は、トイレとかなかったから、スコップがトイレだったんですよ。そういうふうにしてずっとやりました。これは、昼御飯とか、晩御飯はカップラーメンとかなんかで、こういうふうなことで頑張ってきました。

これは、よし江さんからもらった手紙です。本当に感謝の気持ちで、こうやって10年くらいかかるのを——本当は10年もかからないけど、そういう気持ちだったのを、ありがとうという気持ちで書いていただきました。こういうふうに災害に対して、この武雄市は、外にも内にも、こういうことが災害の対応も先進地じゃなきゃいけないと私は思っております。

次ですね。

今さっき、地震でした。地震の話をしました。災害、よく聞くのが、地震、雷、火事、おやじですね。おやじはもう今、大したことないです。でも、火事、火事ですね、火事は武雄市内でも多く発生しています。平成22年度、25件、もう1カ月に2件以上は発生していると。平成23年度も十数件、平成24年度は18件、少なくとも月1.5回から2回は火災が発生しております。末藤団長さん、本当にお疲れだと思うんですけど、よろしくお願いします。

先日、私、火災発生初期現場に居合わせました。そのとき思ったことで、こういうことがあったら、より一層防災になるなど、安心・安全につながるなど思ったことを、今から聞いていきたいと思うんですけども、これですね、これは消火栓です。消火するけど消火栓です。これですね、私が火災発生現場でふたをあけた消火栓です。その現場のやつです。でも、この——うち、若木町本部というところなんですけど、この消火栓はあるんだけど、これがなかったんですね。消火栓はあるけど、これがないから消火せん。

これ、ホースと筒先をつけなきゃいけないんですよ。そこで火事がある。ここに消火栓がある。これだけじゃだめなんですね。格納庫まで行って、消防車をとりにいって、そのホースと筒先をそこにセッティングして、回して初めて水が出ると、ただし、このホース収納庫がそばにずっと設置してあれば、すぐ消火できます。多分、私が車をとりにいっていた、例えば、3分間か4分間の間に、もっとかかったかもしれませんが、もっと早く消火活動ができたと思います。

多分、若木町の——すみません、若木町であったので、若木町の話をするんですけど、幾つか

しかないんですね。やっぱりこういうのが武雄市内いっぱいあれば、すぐにできるわけですよ。これは、末藤団長さんもいらっしゃるのであれなんですけれども、何が大切かというところ初期消火ですよね、初期消火。初期消火が大切なのに、このホースの格納庫がないので、とりにいかなきゃいけない。とりにいく間の5分、10分、近けりゃ——近くてもちょっとあれなんですけれども、その間が非常にもったいない。もったいないというか、危ない。

ですから、1つ目の質問なんですけれども、この消火栓のそばの消火ボックスの設置、今度のアベノミクスのいろんな防災対策、経済対策の中で、そういう中で、これを、多分ですね、ちょっと今、持ってきていないんですけれども、防災のやつが予算いっぱい、数千億円出ていると思います。そういう中で、これを今後引っ張って、市内に置いてもらえないものか。

あと、もう1つ言えば、市内でも自分たちでお金を出してつくっていらっしゃるところ、結構いらっしゃいます。一応、事前に話しました。「こうやってやってくれて、うちは金出したとけ、どがんしてくるってやて言わんでしょね」と言うたら、「言わん」て言わしたけんですよ、ぜひこういうふうな消火栓の分、そして、消火栓だけじゃなくて、このホースの設置を、いろんな補助とかなんとかで、できるだけ、全部とは言いません、できるだけ多くして、市民の安全・安心に寄与できないものか、まず、最初の質問といたします。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

先般出ました国の日本経済再生に向けた緊急経済対策においては、残念ながら消火栓のホース等の補助メニューはないということでございます。しかしながら、その中で、対策の中で、消防団等の地域の防災力の強化についても記載されているということから、今後、そういうメニューが出ることも考えられますので、注視していきたいというふうに思います。

ただ、整備する場合におきましては、消火栓のホースの格納庫に限らず、地域の消防力の総合的な強化の観点から、メニューをそろえながら、既に整備をしている地域についても配慮しながら整備していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

これも消防団の方ならわかると思うんですけれども、火災現場に行って、一番最初にするのは、もちろん初期消火とさっき言いましたけれども、水利の確保ですよね、団長さん。水利の確保です。水利の確保ができないと水が出ない。これは、消火栓というのは水利の確保、すぐできます。

先般、例えば、若木町消防団で行った訓練というのは、水利の確認です。水利の確認がもう訓練になっている。ここで火災が起きたときは、どこから水を持ってくる、ここで火災が起きたら、どこから水を持ってくる。特に山間部が多いところは、なかなか水の確保ができていく。そして、田舎だから水がいっぱいあると思うんですけども、なかなかないところがあるので、この消火栓があるところというのは非常に心強いというふうに、団員ともども話しておりました。

ぜひ、先ほどおっしゃいました全体的な見地からでもよろしいので、ホース格納庫、さらに、もしもう1つわがままを言えば、参議院選前にもう一回こういうふうな予算額出るかもしれません。ぜひ、そのときには、これで武雄市民の安心・安全の見地で設置していただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりこれこそ公明党なんです。あのね、防災・減災でニューディールといったときに、何もそれを、かたい箱物じゃなくて、やっぱりこういうソフトが必要で、これ、ハードと比べると100分の1以下で済むわけですよ。ただ、どこにつけるかというのは、それは自治体の判断にお任せいただきたいと思えますので、ほら、若木で、自公政権ですので、そういう観点で、やっぱり我々としても力を尽くしていきたいなと思っていますし、御指摘はよくわかっておりますので、そういうふうに、私どものほうからも事務的に、これはメニューに加えてほしいということは申し上げていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

これでもう消火せんが消火するになるわけですね。はい。

本当に、今、冗談みたいに言っているけど、一番早いです。近くにあれば一番早い。これが安心・安全、武雄市安心・安全に、若木町だけでなく全体につながってくると思うので、ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。

では、今の消火栓は終わりました、次。

これは、原発事故、23番議員さんがよくスピーディの話をして、放射能の恐ろしさ、そういうふうないろんなことをおっしゃっています。これは新聞に出ていた予想ですね、放射……（発言する者あり）武雄市、ずっぽしなんです、ずっぽし。ここで、やっぱり1年半前、こういうことが事故が起こった場合に避難訓練しました。若木町の住民が東川登の公民館のほうか、あっちのほうに行ってやりました。そういうときに、ふと思ったんですけども、消防団が最後まで地域住民が避難したかどうか、ずっと見回るんですね。ずっと見回

って、最後まで確認しています。

何でか知らないですけれども、ここは放射能防護服が全部あるんですよ、武雄以外は。最後までいなきやいけないところ、もし何かあった場合に、放射能にさらされるということですよ。でも、30キロ圏内だからぎりぎりだから、ここら辺はあるけど、武雄はないんですよ。杵藤消防本部にもないんですね。（発言する者あり）はい。だから、例えば、火災のとき、東北のほうもそうなんですけど、やっぱり緊急に逃げると火災が起きると、普通の民家の火災ですよ、火つけばなしとかなんとか。そういうときはやっぱり消防団は、消防署とかなんとかというのが、やっぱり消さんぎ、全部燃ゆっけんですね、いろいろあるけん、やっぱりそういうふうな配備も必要じゃないかと。

さっき言いましたように、全部、一番最後まで残るのが、多分、市の職員さんと消防団、見回りでやる。もちろん、警察も。警察にはあるらしいです。武雄署はあるらしいです、そういうふうなのが。消防団及び消防署、消防署はないらしいですね。ですから、万々がーのときのために、やっぱりそういうふうな備えというのも必要じゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、ちょっと牟田議員さんの資料を活用させてもらいたいですけれども、東北に行ったときも、3月11日の大震災の後に、孫正義ソフトバンク社長と、私は佐賀県の知事の特使として参ったわけですね。そこは、原発から34キロかな、ところなので、ちょうど武雄市と同じなんです。いろいろ話を聞いていたら、やっぱり逃げんばと、逃げると。それは消防団であっても、もう逃げる。多少、火災とかなんとかというのはあったにしても、私が聞いたとですよ、これ、私が聞いて、私がそれはイエスかノーかというのはよくわかりませんが、とにかく津波とか原発なので、とにかくこっちに逃げたらいかんわけですね、こっちに、そうそうそうそう。

そいけんが、スピーディが出て、これは黒岩幸生議員さんがよくおっしゃっていますけれども、これを早く我々は察知をして、住民の皆さん方に防災無線とかコミュニティFMとかで、この方向だけは逃げたらだめですと、ですので、例えば、これで言うと、東のほうに逃げてくださとか、西のほうに逃げてくださとかいうことを、いち早く、そこに消防団の方が残るといのは、基本的には考えられないんですよ。放射能の濃度にもよりますけれども、ですが、ただ、ないということになると、それはちょっと問題だと思いますので、これ補助メニューが今ないので、市のほうで単費で購入します。購入した上で、今後ちょっとふやしていくということについては、国の補助等を活用していきたいというふうに思っています。

ただ、御存じのとおり、防護服といってもいっぱい種類があるんですよ。ですので、私は

基本的に逃げられることを想定として、軽微なものを数多くあったほうがいいだろうと、重装備なやつでお金のかかるのを5つか6つあっても仕方がないので、そこはよく末藤消防団長と相談をさせていただきながら、必要な配備は行いたいと。特にその場合は、若木にきちんと置く必要があるだろうとは思っています。ですので、それはよく消防団と協議をした上で配置を決めてまいりたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱり市長がこうやって言っていたくのも、孫社長と行った原体験できちっと言われているんですね。これ、何でこの質問にしようかと思ったら、訓練のときに消防団は最後まで見て回れという指示だったんですね。1軒ずっと、皆さんが避難しているかどうか見て回れという指示でしたから、こういうのが必要じゃないかということで質問したわけです。

さらに、市長がさっきおっしゃったように、重装備じゃなくていいと思います。調べたら、ヤフーショッピングに出ているんですね。10着3万円。

〔市長「もっと安かよ、今」〕

そうですか。10着3万円だったんですよ、軽微なやつだったら。だから、もうそういうふうなものでいいから、万々が一ですね、そういうことで、よろしくお願ひしたいと思います。

では、次にもう1つ、災害の分です。——ごめんなさい、ちゃんと画像用意していました。失礼しました。3,000円。これでいいらしいです。もうとにかく放射能、放射線が直接入ったらダメですが、放射能に含んでいるいろんなものは、もうこれで防護できるらしいです。ヨウ素とか何とか何とか忘れてましたけど、はい。すみません、ちゃんと用意していました。失礼しました。

次、災害の一番最後のところなんですけれども、やっぱり山崩れ。前回、いろんな質問をしました。災害対策で5軒以上ないとその要綱でできないから、その3軒を少なくしてくれとか、そのパーセンテージを何とかできないものかということでしていました。

そこで、もう1つ、ちょっと別メニューなんですけど、お願ひしたいのは、これは普通の全然関係ないところの画像を拾ってきたんですけれども、地権者、崩れた山、山の地権者、そして家のほうに来ている人、ですね。お金を出すのは多くは、本当は話し合いらしいんですけれども、こっちの家の人、崩れたほうじゃなくて家の人が多いらしいんですね。通常、あなたのところが崩れたけん、あなたのところも少し見てばいというふうなことがあると思うんですけれども、やっぱりこうやって来たほうのものが来ると。やっぱり山と家というと、地権者が近所に住んでいるときが多いんですね、お互いの地権者。そいぎ、お互い言いにくかわけですよ。あんたところの山の崩れてうちに入ってきたとやろうもんで、いや、あんたは安全のために防護壁ばすつとやろうもんというとなって、近所同士じゃいけないので、

ぜひこういうのがある、もしくはそういうのがあるところ、市が間に入って、ちょっと、調整みたいな形で、そういう調整機能を果たせないものか。やっぱり御近所同士とかなんとかというのが多いので、そういう調整機能が果たせないものか。これをここの災害の最後の質問にしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

災害復旧につきましては、受益者の方から一応負担金を徴収するというふうなことでございまして、申請をする場合には、工事の内容、あるいは工事費、それから、負担額等が大体どのくらいですよというふうなことを示して、同意を得ながら申請をして、工事に着手するというふうなことにしております。

さっき議員さん言われたように、受益者と所有者が異なる場合は、どちらが負担するのかが、今、いろいろなところでも問題になっているところでありますけれども、行政としてどちらにどれだけ払いなさいというふうな判断をする立場にはちょっとないというふうに考えてございまして、両方で十分話し合っていただくというのが根本ですけれども、その相談等には十分乗っていらっしゃるところであります。（「議員さんによろしく願いますて……」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

どっちがどっちということは、一応そういう場を設けたり、調整機能をちょっと働かせていただきたいというふうに思います。やっぱりこういうのも、これから先はふえると思うんですね。ぜひそういうふうな調整機能の充実をお願いしたいということで、次の質問に入りたいと思います。

これ、今、答弁した部長さんですかね、秀島課長さんずっといらっしゃるんですけど、まず、経済、景気のところの部分なんですけれども、オルレですね、結構新聞見る人はわかると思うんですけど、何百人と来ていらっしゃるんですね。やっぱりそういうふうな武雄に物すごく景気というか、経済的に影響を及ぼす大きな事業だと思っています。

こういう中で、今後このオルレ、ぜひ頑張っていっていただきたいと思うんですけども、今後どのようにこのオルレを、実績でもいいですし、こういうようなものですよというのを、ぜひもう一度言っていただきたいのと、これの観光協会との協働はどのようにされていくのか、この2点をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

オルレにつきましては、昨年の3月以降11月までの間に韓国のほうから、これは韓国の旅行社の調べで、1,263名の方が武雄市に来られております。

それから、1月には日韓登山大会、(モニター使用)これがオルレコースですけれども、1月には日韓登山大会に311名の方が来られております。これが日韓登山大会の誘致の状態ですけれども、そういうことで、この方たちが武雄に泊まっていたというふうなことです。

それから、国内の参加者につきましては、個人で来られる方もおられまして、なかなか把握するのが難しいんですけれども、JRウォーキング等で来られた方、大体500名程度は来られているだろうというふうに推定をしております。

今後の見込みということですが、3月末からゴールデンウィークにかけて、福岡からの日帰りツアーが造成されまして、その分を今現在募集中というふうなことであります。

それから、九州観光推進機構も本格的に国内からの誘客ということで、各旅行社のほうへ売り込みを開始しておりまして、さらに地域の団体等との協力によって、イベントの開催や滞在時間を延ばすために第2のコースを設定できないかというふうなところで、今、取り組みを行っているところであります。

○議長(杉原豊喜君)

21番牟田議員

○21番(牟田勝浩君)〔登壇〕

年間何千人と来られるということで、これからもまた伸びていくでしょうから、ぜひこういうのを、さっき観光協会との協働をどうされるんですかという答弁はなかったんですけれども、例えば、オルレ何千人、武雄の議会への視察何千人と合わせたら、もうすごい数になるので、これも観光協会さんもきちっとして協働事業でやったほうがいいんじゃないかというぐらい思います。

第2のコースを探しているというから、ぜひ大楠と風穴を候補にひとつしていただければ助かると思うんですけれども、その観光協会との協働のところはどうなっているのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長(杉原豊喜君)

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

観光協会も含めて、今、商工会議所、あるいは商工会と連携して、体制整備を行っているところでありまして、市民一丸となっておもてなしが必要ではないかというふうに思っているところです。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

でも、今の観光協会のまんまだったら、それはちょっと無理なので、というのは、それは能力がないと言っているわけじゃなくて、今、韓国から、あるいは国内からも予約多いんですよね。ですので、特に韓国のオルレを言うと、例えば、韓国語を話せるとか、表記とかというのは、ぜひ観光協会に一部担っていただきたいと思っています。

そこでこ入れとして、うち、4月1日付でうちの職員を、これまたエース級の人間を出したいと、ちょっと名前はまだ本人に言っていませんので、ここで言いそうになっても、言いませんよ。なので、そういうことで行政がまたしっかり支えて、観光協会とうまく連携がとれるようにしていきたいと思っています。

できれば白濱さん出したいと思ったんですけど、もうそろそろ退職なので、それはちょっと出せませんので、もう少し若い人で、白濱さんぐらいの馬力のある、破壊力のある人間を出していきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうなんですよね。表記、メニュー、僕はいろいろこう見るけど、韓国語でメニュー書いてあるので余り見ないんですね。やっぱり武雄市もそれだけおもてなしするなら、やっぱり韓国語の表記があれば本当におもしろいと思います。来た人も、あるばいと。

私、たまに三夜待というグループで——たまにというか、昔、韓国に行っていたんですね。そういうときに、向こうのメニュー、やっぱり日本人いっぱい来るから、メニューを書いているんですね。

この写真、私行ったとき写しました。「えびクリーム スーパゲティ」、これエビクリームスパゲティのことですね。こうやってたどたどしくも書かれているんですよ。おもしろいばかり見えています。例えば、こういうのも、おしるこ、ぜんざいて、両方とも間違っているんですけども、こういうふうにして、これね、わざとこうやっているんじゃないくて、こうやって頑張って書かれているという意味でしているわけですよ。武雄はこういうのはありますか、ないでしょう、多分。これもそうですね。「生いいだこにいたたべもの」とか「おおくのしゅゐいあぶらあげにしたもの」とか、一生懸命考えてやられている跡がわかるんですね。韓国のあれも。これもカプチーノが「カプッチーノ」になっているんですね。これは「チチゲ」になっているんです、これ。でも、こうやって一生懸命向こうの方々は日本人のお客を自分のお店に引っ張ってこようと考えていらっしゃるんですね。やっぱりこうやって日本、さっき市長がいみじくも言われた、こういうふうなオルレで何千人も来るあれだった

ら、やっぱりこういうふうに通す、そして、夜の街とかなんとかも、こういうのも必要じゃないかということで、ぜひ先ほど市長がおっしゃった、いろんなところに観光協会とやっっていくということで、ぜひ期待して待っておきたいと思います。

続きまして、F B良品、これちょっと見につかですね。ちっちゃかとばちょっと伸ばしてしまいました。よくわかりません。これも、さっき言いましたへび年、商売の年、これも伸ばしていただきたい。いろんなところから注目を受けています。今できるかどうかはわかりませんが、ヤフーだったら、私、いつもヤフーオークションやるんですね、ヤフーオークション。楽天も楽天オークションというやつやっています。イーベイ、イーベイは世界最大のオークション、これはみんな参加できると。

例えば、ヤフーとかの決算見ると、ヤフーオークションの手数料というのは、何十パーセントですかね、売り上げの。もしこういう中で、F B、ファン・アンド・バイのオークションとか、そういうのができれば、そういうのもおもしろいんじゃないかと。何て言うんですかね、これは土地を、市有地を売るといっては、もちろんいろんなオークションにかけられると思うんですけども、F Bの中でオークションをやる。これも今回、I T関連の拡張事業の予算、これ結構取れていたと思うんですよ。武雄市はいろんなこういうことのソフトの構築にすごい方が、顧問とかはいらっしゃるので、そういうオークションのシステムをつくれるというのは、国の金でできると思うんですよ。これは確証はありません。

オークションというのは、1円からもちろんスタートというのもありますし、いろんところで、多くの市民がかたれる。今まで自分が、要らないで売るといのは、フリーマーケットぐらいしかなかったんですね。あと、口伝えで。こういうふうな場を与えていただければ、ファン・アンド・バイの入るきっかけになるんじゃないかと、ヤフーのポータルサイトが急激に伸びたのも、やっぱりオークションの力が物すごく大きかったと。

さっき言いましたように、今度の緊急対策事業の中のI T部門というの、少なからずの金があって、そういう中で、こういうソフトの構築もそういうとでやっていただければ、そう費用をかけずにできるんじゃないかというふうに考えまして、こういうことも先々考えられるんじゃないかということで質問に上げさせていただきました。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常にいいアイデアだと思います。ですが、ちょっと一般のサイトでヤフーとか楽天のシステムを使わずしてオークションができるかどうかというのは、ちょっとよくわからないんですよ。今、我々はメークショップというソフトを使っていて、基本的にシーズが組み立てて出していますので、そういったオークションの機能が組み込めるかどうかというのは、ちょっと時間を欲しいと思います。

そして、誤解なきように申し上げますと、今度の市有地のネットオークションについては、これはヤフーオークションに出していきます。これは1円からスタートをさせます。ですので、もともとあるものに、ヤフーオークションというのは日本最大のオークション市場ですので、これは市有地と非常に関連が深いと。だけど、FB良品に出すものについて、これをヤフーのオークションにかけるといのは、ちょっとやっぱり考えにくいんですね。ですので、そこはちょっと分けて考えていきたいと思っておりますけれども、アイデアについては非常に、僕も一時期オークションにはまっていた時期があって、はまり過ぎて高槻市でちょうど10年前に放置自転車のネットオークションを始めた張本人ですので、それがいまだに続いているようですけど、ですので、オークションと、例えば、特産品であるとか、使わなくなったものを組み合わせるといことについては、非常に私も理解をしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今後、そういうふうな国の補助とかあれば、考えていっていただければと思います。こういうのは前向きな質問ということだと思いますかね。

〔市長「すばらしいです」〕

では次、経済の最後なんですけれども、これ、もう前から言っているんですけれども、事業があります。元請さんがとられます。で、下請さんに流れて孫請さんとか、ここからいろいろ広がっていくと思うんですけれども、ここだけもうけてもだめなんですね。やっぱりこの下請さんもある程度利益が取れるようにしていかなきゃいけない。孫請さんも利益が取れるようにしていかなきゃいけない。そういうふうなシステムを、今度のアベノミクスにしても、末端まで行くような形、例えば、武雄市内でもいろんな業者、AというA級ばかりじゃない。周辺部とかなんとかというのは、下請、孫請の方々がいっぱいいらっしゃる。そういう末端まで行ってこそ、初めて景気がよくなるということだと思います。こういうのに対して、前から言っております。例えば、下請承認届とかなんとかも、武雄市内の業者とかなんとか、そういうふうなことで指定をしていただくのか、こういうふうな考え方を、今後もやっていただければと思うんですけれども、いかかでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

確かに言われるように、市内業者の発注というのが一番基本かと思っております。若干、状況を御説明いたしますと、平成24年度で出しました工事のうち、入札を372回やりまして、市内業者が落札されたのが95%、353社がとられております。それから、委託関係につきま

しては、92回のうち84回、市内業者が91%。物品発注につきましては、20回のうち14社ということで、若干落ちますが、市内が70%。

市外を指名するという場合、やはり指名する業者の数が足りないという、そういう観点で指名しているというのがほとんどでございます。それと、物品の場合につきましては、市内で取り扱う業者がいらっしやらないという、そういうことから、若干ではございますが、市外業者がお入りになっているということでございます。

御質問の下請承認申請関係になりますが、これは、担当課のほうで承認する際に、そういう指導をしていくということで御理解いただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひそうやって市内業者育成、末端まで景気が回るようなアベノミクスをそのまま武雄市のほうでも当てはめていただければと思います。

経済関連の最後になりますけれども、先ほど19番山口議員さんと市長の間で、新幹線の分が出ていたと思うんですけども、新幹線こそ、本当にこの経済対策、景気対策に物すごく寄与すると思うんですね。国の金でやっていただくと。長野までは財政投融资で数千億円、国がみずからお金出しています。全て地域負担じゃなくて、国の都合でこれは出す、これは出さないということで分けていらっしやいますので、ぜひ今度の分を出していただけるよう頑張ってくださいと思います。

では、次の3番、地域活性化の部分に入りたいと思います。

前回、これはちょっとあれですけども、塩田の住宅団地の例を出しました。塩田町の住宅団地の例を出して、物すごく武雄市から二十数世帯がそちらのほうに住まれたと、すぐ埋まったという話をしました。で、今度はもう1つ別の例で、多久のメイプルタウンですね、パープルタウンというのが何か歌にあったと思うんですけど、メイプルタウン、130戸で、これは多久のものの部長の木島武彦部長が企画されてやったんですけども、百三十数戸、1年数カ月で全部、ここ、昔何もなかったんですね、埋まったらしいです。これは高速のインターがここか、ここの横、大体インターのところ山が多いですから、やったそうです。

こういうふうに、塩田のちょっと外れのほう、例えば、多久の外れのほう、そういうふうな住宅団地をしても十分こうやって埋まっていくというふうなことで、話をして行って、質問通告に出しておりました物すごく若木町でも期待しているのがあるんですけども、太陽光村、その後どうなったのかということで、よく聞かれるんですけども、きょう区長さん方もいらっしやっています。ぜひこの進捗状況をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お答えいたします。

去年の6月議会、牟田議員にお答えしたとおり、太陽光村はぜひやりたいと思っております。これですか、はい。採算性の観点から、土地の買収が高くなると、それだけ売価が高くなるということで、地元の関係者への協力と、前さばきですよね、というのを牟田議員さん、松尾陽輔議員さんをお願いをしています。ですので、我々とすれば、適正価格できちんと買わないと、これ市民負担にもなりますので、そこの前さばきはぜひ引き続きお願いをしたいと思っているんです。

あわせて、当該用地というのが、第1種の農地なんですね、第1種の。農地でありますので、この開発というのは非常に限定されます。そういう意味でいうと、多久のメイプルタウンとはちょっとやっぱり違うんですよね、制限がかかっていますので。農林水産大臣、これは具体的な権限は地方の九州農政局長に委任されていますけれども、今のところ、優良田園住宅という制度があるんですよ、優良田園住宅と。その認定を得る方法しか今のところないと考えていて、これ、県とも調整をちょっと今進めているんですけれども、現在、認可の可能性について、県、国の関係機関と協議を行っております。

ですので、ここが全然制限のかかったらんやったら、えいやってできるんですけれども、当該場所が、そういった意味での非常に制限の高い第1種農地という位置づけで、先にこれ解いとかんばいかんやったわけですよ。何も使いよらんやったときに。ですので、それはもうはっきり言って、前の市長さんとか私、私も当然責任はかぶりますけれど、ある意味、そういう意味での前さばきができていなかったなというので今反省をしております。いずれにしても、これはぜひやりたいと思っていますし、もし、住む人がいなかったら、牟田議員さんと松尾陽輔議員さんと僕は住まなきゃいけないと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうやって制限をクリアしてやって、努力してやっていただければと思いますし、私も松尾議員さんも協力してやっていきたいと思っております。

お結び課、先ほど10番の古川議員さんも話が出たんですけれども、やっぱり独身者の方々多いんですね。これはもう隠しようのない事実で、その中で、これをどうこうということはないんですけど、以前ですね、私、20代のころ、20代の後半ぐらいに、どこかの企画で1日お父さんという企画に行ったんですね。1日お父さん。

1日お父さんはどういうことかという、ひとり親家庭のお母さんが、例えば、20人ぐらいいらっしゃると。子どもも20人から30人いらっしゃると。その1日だけお父さんやりますよと、一緒に遊園地に行きますよと、そういう事業だったです、バスで。すごい楽しいん

ですね。向こうも子どもたちが、1日だけとはもうわかっているんですけども、一緒になってやあやあ言って、その中でもカップルができるわけですね。独身です。ひとり親ですけども、独身、我々も独身ですから、こういう企画も考えられるんじゃないかと。1日お父さん、楽しいですよ。3日お父さんでもいいかもしれない。独身同士でしたから。（発言する者あり）いろんな場合も考えられると思うんですけども、何かおかしいこと言いましたかね。（発言する者あり）よかですよ。

こういう企画が十数年前まで毎年あったような気がするんですけど、いつの間になくなったので、こういうのもぜひ、そういうふうな企画の中に、そのときの画像とかなかったんですね。でも、みんな楽しかった。バスで諫早の干拓の森に行って、面々行って、面々で御飯食べて、帰るときにはそういうふうな人たちは電話番号を交換するとかなんとか、結構あったんですね。完全に独身なら独身者でもいいんですけども、ひとり親家庭の1日お父さん、ひよっとすると1日お母さん制度でもいいかもしれない。だから、こういうのも考えられるんじゃないかという御提言ですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

私の記憶では、恐らくお父さんになられた方は、当時の青年会議所さんの御協力があったのかなという、記憶違いかも知れませんが、そういった団体の方が協力した形で、福祉サイドの事業として取り組まれていたのではないかというふうに思っております。

先ほどの御提言につきましては、福祉サイド等、そういう事業がないのかということも調査の上、提言について参考にさせていただいて、イベントに生かしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

古川議員さんもおっしゃっていた合コンもいいと思います。合コンもおもしろいです。こういうのもぜひそういう中に入れてやっていただければと思います。

地域活性化の中で、きのう話が出た中で、校区制度の撤廃というのがありました。校区制度の撤廃で、そういうので、例えば、若木とか北中のほうでアレルギーの子どもを受け入れたりなんかとかというのを、その後、調べたんですけども、校区制度というのは、尋常小学校時代はなかったらしいんですね。

〔市長「そうなんだ」〕

はい。近衛文麿内閣のときに、ドイツの国民学校をまねして、初めてそこで校区制度というのを取り入れて、教育基本法第5条では、地域の市町村教育委員会の判断に委ねるとい

ことになっていきますので、ぜひこういうのも、一つの地域活性化ということで取り組んでいただいて——取り組むというか、研究していただいでやっていただければと思います。この件に関してはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは教育委員会の専権ですので、私が申し上げるのは、その市政を統括する立場と、もう1つは予算を伴う話ですので、その立場からお答え申し上げますけれど、これね、校区を一気に撤廃をすると、恐らく今のままだったら、若木、武内、あるいは山内の一部ですよ、これ多分、旧武雄市のほうに一気になだれ込む危険性があるんですよ。ですので、校区の全面開放じゃなくて、一方開放ですよ。片務的開放という言い方をしたいと思うんですけども、要は、例えば、旧武雄市の武雄町であるとか、人口が伸びているところの小学校とか中学校の皆さんたちが、いろんな事情があって、例えば、アレルギーであるとか、いじめもあるかもしれません。そういったことで、周辺部の小学校、中学校に行くのをまず認めるということを、段階を踏んでやらないといけないということです。まず、私がちょっと教育委員会と調整をしたいのは、まず、部活の校区を外す。もう動く。その上で、もう議論をしている場合じゃないんですよ。

現に、きのう上田議員からも教えてもらいましたが、鹿島と武雄中学校が——あ、すつとでしたっけ、よかですか、言うて。ソフトボールでしたかね、少ない学校同士が結びついて部活を一緒にしている。鹿島がもし人口が、学校ね、ふえれば、ひょっとすぎ外れてしまうんですよ。そうなったときに、永続的に活動ができないという危険性があるわけですよ。ですので、先ほど申し上げたとおり、部活、基本的には武雄中を想定していますけれども、武雄中の部活、山内中にもなるかもしれませんが、そこに周辺の、例えば北中であるとか、川登中であるとかの児童が入ってきて、部活を一緒にするというのが第1段階。

第2段階は、先ほど言ったように、片務的な開放。だから、なるべく周辺部に行けるように、だから、周辺部の学校というのは、物すごく努力しなきゃいけないんですよ。例えば、給食で特色を持たせるとか、例えば、この学校は——例えばですよ、国語教育、英語教育で特色を持たせるとかというふうにしないと生き残り無理。ですので、それは頑張ってください。そうやって頑張っている学校には、集中的に予算を投下していきます。ですので、校長に頑張りが見られないところは、予算やったって無駄なんですよ。ですので、これは校長の奮起をぜひ促したい。今度、そういう環境にします。

最終的には、さっき言ったように、校区の全面開放と、多分その3段階になると思いますので、これは教育委員会とよく調整をして進めていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今言われたことは、教育面だけじゃなくて、地域の活性化も含めた全ての面で大きな影響力を持っていると思いますので、ぜひ研究して実施していただきたいと思います。

では、次。

これは、湖水まつりであっていたんですね。今度はメガソーラーになったので、ちょっとあれだったんですが、若楠ポーク、これ、ちょっと画像がすみません、ちょっと小さいやつしか撮っていなかったのが、湖水まつり。これも湖水まつりですね。若楠ポークの宣伝でした。これはポーク人形、これ何やったのですかね、たまたま画像拾ったんですけど、これ若楠ポークの宣伝なんです。

これ、先日ちょっと焼き肉呼ばれたんですけども、これは鹿ですね、これはカモ、これはコーチン、これは何だったのですかね、こういうふうにはいろいろな肉があったのをいただいて、本当おいしかった。これがアナグマの肉、これはもう最高ですね。めったにとれないという、これもいただいてきました。これは、脂身の部分が抜群に、におい全くないです。すごかったです。で、こうやっていただいたんですけども、やっぱり若木町とか周辺部では若楠ポークが物すごく力を入れていらっしゃる。もちろん牛もあります。

そういうふうな中で、これは若楠ポークですね。これは、ちょっと変なんですけど、大楠公園です、ここ、大楠公園。今度、バイパスがこう通るんですね。こうか。で、大楠がきちんとこっち側から借景が物すごくよく見えます。ただ、おりるには、こう来なきゃいけないんですけども、ぜひ今言った若楠ポークとか、いろんな種類のお肉とか、いろんな食が食べさせられる、料理のできる、この辺の大楠公園の近くにそういう場所ができないものか、今度の地域活性化事業で。やってくださいというか、ぜひそういうメニューを見つけることをお願いできないものかという質問なんですけれども、やってくださいといったら、これは無茶になるかもしれないので、今度の経済対策とかなんとかで、そういうふうな、多分畜産何とかで、またちょっと忘れたんですけど、いろんなのがあります。そういう中で、このところにそういうふうな食とか地域の分でできないものか。

きょうくしくも、きのう市長がおっしゃったシェ・イノの古賀料理長があるんですけども、やっぱり食というのはすごいですね。さっき言ったうちの前、火災というのが、そば屋さんというのはもう新聞に載っていたから言っていると思うんですけども、まだ来ていらっしゃるんですよ、火事で知らなくて。うちにいつも、あそこ火事だったんですから、いっぱい来られるんですね。やっぱり食というのは、引きつける能力がある。ぜひ、ここはこういうふうなバイパスもできて、多久も唐津も伊万里も武雄も有田も、物すごく中心でいいところですので、そういうふうな補助メニューがないかどうかというのを、まず1つ目に質問いたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ごめんなさい。私もいろんなところに行きますけれども、補助メニューを活用してできたところで、僕はおいしいところは知りません。やっぱりこれね、民間の人たちがリスクを背負って、一生懸命骨身を削って、メニューを磨いて、宣伝をして、そういうところでしか僕は無理だと思うんですよ。ただし、例えば、三重県の、この議会でも出ましたけれども、モクモクファームというのがあって、あれはいろんな多分補助金とかがあるんですけども、あれも附帯施設があってこそなんですよ。ですので、例えば、そこに食べ物屋さん、レストランをするで、だから、牟田議員さんの目の前のそば屋さんでも、あそこ、補助金は一定古民家を改装するときにあったかもしれませんが、その改装の部分はあるにしても、じゃあ、そのそば屋さんそのものに補助金というのはやっぱりないわけですよ。

ですので、僕はそれよりも、今ちょっと制度設計やっていますけれども、新たな交付金をつくらうと思っているんです。起業するに当たっての交付金をつくらうと思っている、今、うちの職員、小松を中心にして制度設計をしていますけれども、それがうまくまとまったときに、9月議会で、議会とまた御相談をさせていただこうと思っているんですね。それは、後押しとしてはあるかもしれないけれども、何かその国の補助金とか県の補助金とか市の補助金を目当てにしてというのは、ちょっと僕はそれは本末転倒だと。

しかし、僕らは、例えば、市報であるとか、あるいは私のフェイスブックでもブログでもツイッターでもいいんですけれども、おいしいところ、頑張っているところについては、どんどん発信していきます。ですので、今、おかげさまで市報を見てきたとか、私のフェイスブックを見てきたというのは、結構やっぱり多いんですよ。そういう意味での応援のほうが、より長くお店を維持できると。だから、僕は、シェ・イノが補助金もらったというのは聞いたことないです。東京の京橋のね。ですので、もう補助金要らなくていうぐらいのやる気のある人たちがやってきて、その環境を整えるには、若木が一番いいですよ。今、結構移り住んでこられていますので、そういう人たちの後押しをぜひしていきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、市長がおっしゃいました補助金をもらって成功したことは少ないと、ないんじゃないかということであるんですけども、ぜひ頑張っているところには応援する、その交付金を考えられているということですから、もちろん若木に限らず、いろんなところが知恵を出してくると思います。そういうときには、ぜひ後押しをしてやっていただきたいと思います。

〔市長「はい」〕

では、次。

これは、これも地元のことなんですけれども、ここ、若木町公民館です。若木の公民館。ここ、農協、JAです。こっちが伊万里側ですね。ずっと小林クリニックさんがあって、公民館があって、JAがあると。そして、ここは郵便局です。ちょっと言えば、JAというのはどこでもJAの支所というのは、各地域のへそになるんですね、へそに。今はJAの統廃合が進んでいます。例えば、ここは橘町です。山崎議員さんのいらっしゃる橘町、これもやっぱりへそのところにあるんですね。ちょっと橘町しか撮っていなかったんですけども、例えば、統廃合になるJAの支所というのは、もちろんこれは行政とまた違いますけれども、一応へそにあるというので、やっぱり地域活用していただきたい。そして、民間も欲しいという人がいらっしゃるかもしれない。

そういう中で、例えば、若木の公民館は、もう建てて結構たちます。今度、武内がつくりかえになるということで、先ほどお金出すのもうあれだよというて、本音言えばというて、市長もおっしゃったんですけども、例えば、これとこれを交換してほしいという人はここを売るとか、そういうことが考えられないのか。例えば、さっき言いました並び、病院があって、公民館があって、JAがあると。この前、部落の座談会というのが、JAの座談会がずっとあって、多くの方が、ここもったいないと、新しいし、いろんな座敷もきれいで、建物もあれで、公民館からこっちのほうに移ったほうがいいんじゃないか、公民館をそのままして、欲しいという人がいれば、そっちのほうで等価交換できないかと。

これはわからないです。その価値自体が、広さもはっきりしていないですし、上物の減価償却も私知りませんので。だから、そういうふうなずるっとしたところで、そういう調整機能がないのか。さっき言いました各JAというのはへそにあります、各町内、やっぱり農業主体だったので、どうしても役場よりも農業のほうが中心になってきました。ですから、そういうことが考えられないのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれね、行政がそこにまず入るとするのは、ちょっとやっぱり考えにくいんですよ。それこそね、やっぱり僕は議員のお仕事だと思うんですよ。だから、行政が調整する前に、前さばきというところちょっときついかもかもしれませんけれども、それはやっぱり地域の議員の、僕はお仕事だと思っていますので、考え方としては、僕は成り立ち得ると思います。どっちも私はよく知っていますので。

だから、ぜひJAさんに、これ、JAの持ち物なんで、我々がどうこう言う話じゃないんですよ。ですので、一旦ちょっと話をさせていただいて、恐らくJAさんにしても、今後こ

れをどうするかというのは、まだ少なくとも僕のところには全然入っていませんので、JAさんも主体的に検討されると思うんですよ。その傍らに、そういった意見がありますとか、アイデアがありますというのを、ぜひ投げかけていただければありがたいなと思っています。行政の調整より牟田さんの調整のほうが上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうやって調整する前に、ここを交換できるのかということ、いいですよとっていただきたくないので、そうやっていろんな区長さん方いらっしゃいますし、相談してやっていってみたいと思います。

では、駆け足で次に進みます。

4番目の教育について。

教育については、前から言っている2学期制です。2学期制。2学期制なんですけれども、これは、前から言っていて、これはアンケートをとるということで、じゃ、わかりましたということで、前回質問をそこでやめたと思います。ただ、アンケート見ていたら、何かのついでに書いてありましたね。2学期制をどうしますかじゃなくて、何かの中の一つだったですね。

今現在、2学期制自体なんですけれども、どんどん撤退していますね。今度の3月でもうやめるというところが、前回に比べて、もう全国で数十校、毎年毎年、3学期になったら、2学期制になったところが3学期にリターンしているというのが物すごく多いですね。そういう中で、武雄市はアンケートもとりました。今後、どういうふうにされるのか。私は2学期制のメリットが全く見えない。わからない。この前言いました授業日数が20時間確保できるといっても、出張時間が800時間ふえたら意味ないんじゃないかとか、そういう話もしました。そういう中で、ぜひこの2学期制を深く考えて3学期制に戻っているというのがあるんですけれども、そういうのができないのか、どうなっているのかと、これは1点目。

もう駆け足で言います。

2点目、週休2日制、土曜日学校のやつが話題になっているんですけれども、どうしてもこれは先生の40時間労働が物すごくネックになると思うんですね。一番引かかる分が。ではどうすればいいかというと、人をふやさなきゃいけない。人をふやしたら、ふやした分の先生の給与は行政が持たなきゃいけない。じゃ、どうすればいいのというたら、例えば、神埼がやっている、あと、いろんな自治体がやっている夏休みの部分で、それを調整してやるというのは、そしたら、自治体も先生のプラスアルファのお金を払わなくていいとか、そういうのがあるとは思いますが、この3学期制へのカムバック、2学期制のアンケートはどうなったのか、土曜日学級、これを3つ、あわせてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

若干長くなるかわかりませんが、一緒に聞いていただいております。お話ししやすい部分がございます。といいますのは、土曜日の開校が、政権かわりまして話題になってきつつあります。文部科学大臣等も話題にされております。ただ、実際には5日制で動いているわけで、戻すとなると、また大変な作業が要るわけでございます。5日制で小学生もかなり夕方遅くまで勉強しているというのが出てきているわけです。

教育委員会としましては、現在、各学校に対しまして、来年度10日程度の土曜日等の開校の計画をお願いいたしております。土曜日等といいましたのは、土曜日、それから日曜日、運動会等がありますが、それから、今お話にあった長期休業、夏休みですね、これを用いまして、土曜日等で年間10回ぐらい、できたら小中同じ日のほうが家庭としても都合がいいんじゃないだろうかと。ただし、いろんな授業で小中別にするときはそれでもいいというような形で、今計画を立ててもらっております。

なぜ今で間に合うのかということですが、今年度、県内各校、市内では北方中学校と山内中学校において試行をしていただきました。その中で、夏休みに北方中では職場体験等を、時間がゆったりとれるということでもらいます。じゃ、その分、平常にしていた分をほかの授業でできるというようなことで、土曜日等の開校で10日程度の授業日をつくっていったらどうかという計画を、今お願いをしているところでございます。

その中で出てまいります課題というのが幾つか出てまいります。おっしゃいましたように、先生方の勤務がございしますが、これは今年度から、その土曜日の前4週間、後ろ16週間の間で都合のつくときに先生方休んでくださいという形に延びて、県のほうでも調整をしております。したがって、そういう先生方の勤務のことは、10日程度であれば可能かなというふうに思っております。

それと、一番根本は、やっぱり子どもたちのことを第一に考えないといけないと思うんですが、今、いろんな調査がありますけれども、やっぱりかなりの割合で、何となく過ごしている、なすことなく過ごしている土曜日というのが、かなりの子どもたちいるわけでございます。特に、塾があるといいますが、大都会等に比べれば少ないわけです。あるいは、本当に社会体育、部活、大事で体鍛えていますけれども、その時間が非常に長くなり過ぎていないかというような心配をされる親さんもいらっしゃる。そういうことで、現在、その土曜開校について、計画をしているところでございます。

その一つの理由に加えますと、やはり授業時数がふえているというのは事実でございます。これまで申しましたように、出張との兼ね合いで申されましたけれども、實際上、やっぱり若干の余裕を持って授業時間を確保できているというのは、2学期制のメリットとして現実

にあります。アンケートにつきましても、とらせていただきました。いろんな御意見をお聞かせいただきました。その中で、おっしゃいましたような御意見ももちろんございましたし、ただ、現在ほぼ定着してきているので、急にはというような御意見も確かにございました。

現在、合併しまして山内町、北方町ということで始めまして四、五年たっているわけがございます。制度の急激な変化ということは、ちょっと支障がありますので、それまで含めて検討をしているというところがございます。これにつきましては、今年度も、また来年度につきましても、教務主任会を中心に、授業時数との関係、いろんな面を含めまして検証をしていくという予定でございます。

すみません、長くなりました。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

御丁寧にありがとうございます。神奈川県はもう全部3学期制に戻しましたよね。2学期制だったのを全て戻しました。その中であったアンケートが、父兄にとったアンケートと教職員にとったアンケートとは全く違うと、父兄にとったアンケートでは、もう3学期制に戻してくれと、教職員を含む人にとったときは、2学期制がすばらしいと、そういう全く逆のアンケートが出て、当時の市長さん、当時の教育長さんは保護者、そして子どもたちのをとったんですね。今、何よりも子どもたちのためということをおっしゃったんですけれども、神奈川県はそうやりました。

そして、山梨県、山梨県も甲府市だけではなくて、2学期制に変えたところも3学期制に戻しました。それも、全て子どもたちの目線でということ。

ですから、一番違うのは教職員のアンケートとか、今、教務主任会でということとて言われたんですけれども、全く逆の結果が出ているんですね。ぜひ、こういうことをさらにやって、よりよい子どもたち——やっぱりね、通知表は3回あったほうがいいですよ。もう2回で、1回して2回というぎ、後はなかけん、やっぱり3回して節目ば、竹の強かとも節のよんにゆかけん強かとですもんね。ぜひ、そういうことでやっていただきたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で21番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここで、午前中の議事進行についてでございますけれども、本来、議場で名前、固有名詞ですね、これを出すのは好ましくありません。19番議員、質問者は本人の同意をとって発言されたということでございます。そういった中で、本人の申し出もない中で、議事進行で名前、固有名詞を出すのは好ましくないと考えます。今後こういったことがないように、注意、配慮していただくことをお願い申し上げます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 14時35分